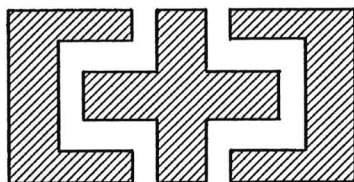


労働災害事例研究



はじめに（四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会長）
発刊によせて（四日市労働基準監督署長）
事例に学ぶ（四日市コンビナート地域防災協議会長）
1981～2025年休業災害363件の分類
2025年休業災害事例（3件）
1984～2025年不休業災害540件の分類
2025年不休業災害事例（39件）
熱中症の対策について直近10年間の分類
熱中症2025年災害事例（休業2件、不休業2件）
四日市労働基準監督署管内「労働災害・死亡災害」発生状況
教育部会報告
おわりに
会員名簿

（第45集）

2026年6月

四日市コンビナート協力会社

災害防止協議会等連絡協議会

安 全

心 得

健康で
ゼロ災害で
幸せで



はじめに

関係者のご協力により、労働災害事例研究第45集を発行することができました。

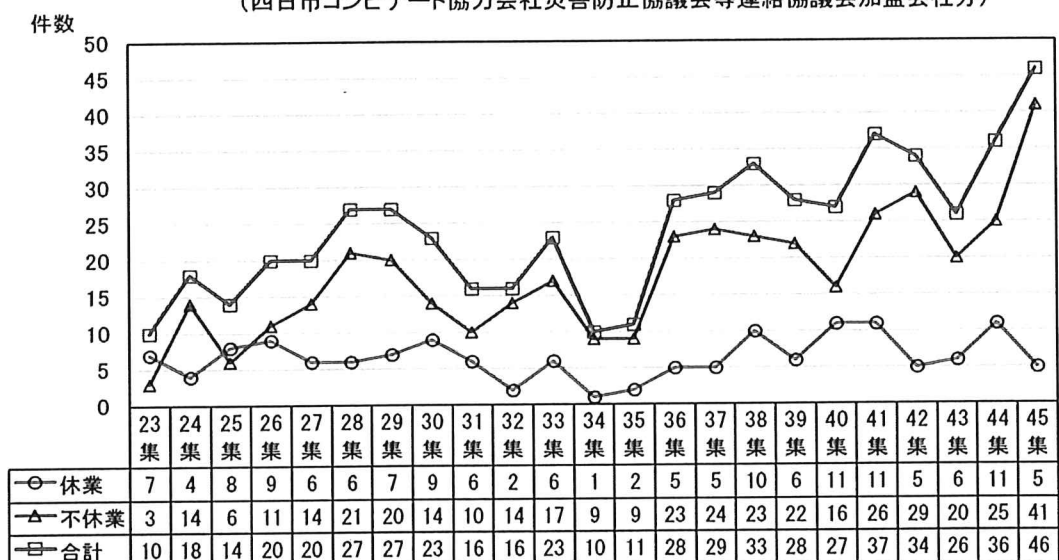
この事例集には、令和7年1月から12月までに当連絡協議会に加盟する企業で発生した労働災害として休業災害5件、不休業災害41件を収録しています。平成28年（第36集）からの横ばい傾向から休業災害件数は熱中症を除くと減少したが、不休業災害件数は増加しています。

事故の型別では、【はさまれ、巻き込まれ】が15件と最も近年でもっとも多く、【激突され】が7件で【切れ、こすれ】が6件、【墜落、転落】、【飛来、落下】が3件で続いています。（【高音・低温の物との接触】の5件のうち熱中症が4件です。熱中症は、これまでも【高音・低温の物との接触】に分類しており第45集では、その内数が分かるよう編集しております。）

コンビナート特有の、薬傷やガス中毒などの【有害物等との接触】は2件で減少傾向は継続しています。

傷病名では【骨折】が11件と令和6年と同程度で多く、【切創】が7件、【挫傷】が6件、【打撲】、【熱中症】が4件で続いています。

労働災害件数の推移
(四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会加盟会社分)



(内数:熱中症)

休業 - - - - - (1) - - (1) - - - - (1) - - - - (2)
不休業 - - - - - (1) (1) - (1) (2) (1) (1) - (2) - (4) (1) (2) (6) (2) (1) (2)

不注意や不安全行動をなくそうなどの抽象的な喚起に留まらず、作業における具体的な「Line of Fire※」に対し”起因物の延長線上に自身の身体を置かないこと”などの安全基本行動を声かけし労働災害に至ることのない作業ルールの順守を徹底しましょう。

そして、工事着手後であっても異常を感じた場合は、ためらわずに工事を一時中断して客先と協議するをお願いします。

※Line of Fire: 労働災害の起因物となる「危険源のエネルギー」が通る道筋

大変危険であり、その道筋に踏み入ることは被災のリスクが高まります。“ハンマーの動線”

“吊荷の下” 重量物の倒れる方向” 機械の駆動範囲” 刃物の進行方向” などがあります。

この事例集を職場で有効にご活用いただき、労働災害の防止に取り組んで頂くよう重ねてお願い申し上げます。

令和8年6月

四日市コンビナート協力会社
災害防止協議会等連絡協議会
会長 小林 伸一

発刊によせて

「労働災害事例研究」第 45 集の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会におかれましては、積極的に災害防止活動に取り組みいただき、心より敬意を表します。

さて、令和 7 年における当署管内の死傷者数は、新型コロナウイルスの罹患による労働災害を除いて、死亡者数は 3 人と前年比 5 人 62.5%減少したものの、休業 4 日以上の死傷者数は、821 人と前年比 15 人 1.9%増加（化学工業では 27 人（6 人 28.6%増加））となり、当署目標である死傷者数 777 人未満の達成は出来ませんでした。

死傷者数を事故の型別で見ると、「転倒」が最も多く全体の 28.7%、次いで「動作の反動・無理な動作」18.1%、「墜落・転落」13.5%を占めています。特に「転倒」においては年齢が高くなるに連れて多発し、高年齢労働者が 47%を占めており、いわゆる「行動災害」の防止が課題となっています。

また、本年は第 14 次労働災害防止計画の 4 年目となり、三重労働局においても引き続き「死亡災害ゼロ・アンダー 2,000 みえ推進運動」を展開しており、皆様方には労働災害を防止するため、引き続き労使一丸となった安全衛生活動の取り組みをお願い申し上げます。

本年度の全国安全週間スローガンは、

「多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場」

です。

皆様方におかれましては、このたび発刊されます第 45 集を有効活用され、労使双方の安全衛生意識を高めるとともに、同様の災害を発生させないよう法令や職場の基本ルールが徹底されているか、また適切に実行できる業務体制になっているか改めてチェックを図ることで、第 14 次労働災害防止計画の目標達成の足掛かりを作っていただきますようお願いいたします。

最後に、皆様の職場で無事故・無災害が達成されますことをお願い申し上げ、発刊によせての挨拶とさせていただきます。

令和 8 年 6 月

四日市労働基準監督署長 久保田 洋一

事例に学ぶ

「労働災害事例研究」第45集の発刊にあたり、加盟会社を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会におかれましては、昭和55年の発足以来、長年にわたり職長教育や安全に関わる各種講習会の開催、さらには「労働災害事例研究」の発行など、労働災害防止に資する取り組みを継続的に推進されております。コンビナートの安全管理の向上に多大なるご貢献をいただいておりますことに、改めて心より敬意と感謝を申し上げます。

ひとたび災害が発生した場合には、重大な結果に至る可能性もあり、事業活動や地域社会にも甚大な影響を及ぼすことが懸念されます。現場に潜むリスクは決して特別なものではなく、常に身近に存在していることを、改めて認識することが重要であると感じております。

近年はAIをはじめとするデジタル技術の進展により、危険予知や設備保全の高度化など、安全分野においても新たな取り組みが進みつつあります。一方で、設備の老朽化や人材の世代交代といった課題は待ったなしで進行しており、これらに対して的確に対応していくことが求められております。

どれほど技術が進歩しても、安全の基本を支えるのは「人」であります。一人ひとりがリスクを正しく認識し、基本に忠実な行動を積み重ねていくことが、安全確保の礎であることに変わりはありません。先端技術の活用と現場力をバランスよく融合させ、より確かな安全基盤を築いていくことが重要であると考えております。

そのためにも、過去の災害事例に学び、その教訓を現場に活かし続けていくことが、安全活動の原点であると存じます。本「労働災害事例研究」は、身近な事例を通じて発生原因や再発防止策を分かりやすく示しており、現場で働く皆様の安全意識の向上と、類似災害の未然防止に大いに資するものと確信しております。

本事例集の発刊にあたり、多大なるご尽力を賜りました貴連絡協議会の皆様に深く感謝申し上げます。本冊子が広く活用され、コンビナート各社における事故・労働災害の未然防止につながることを心より願っております。

最後に、日頃より多大なるご支援とご協力を賜っております加盟会社の皆様の益々のご発展と、無事故・無災害の達成を祈念申し上げ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

「ご安全に！」

令和8年6月

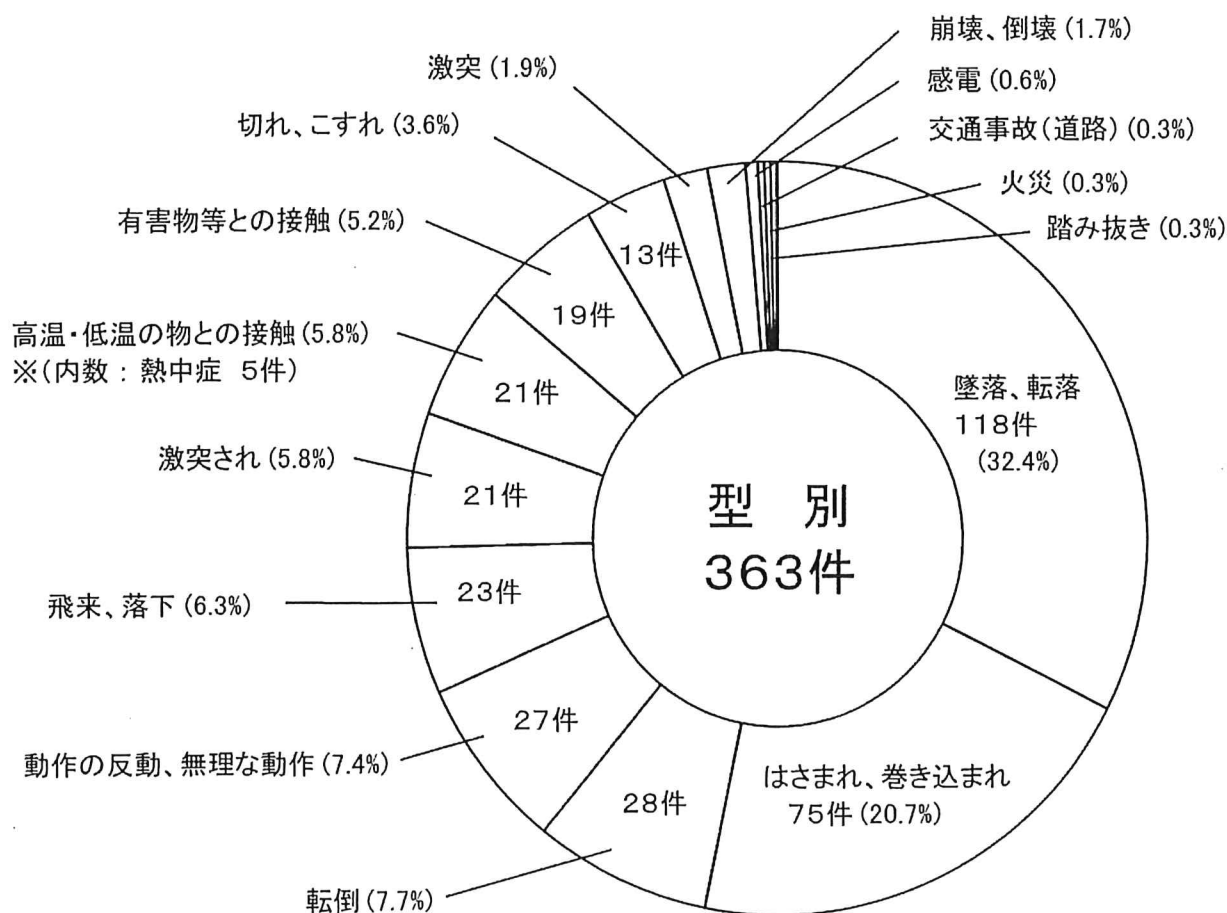
四日市コンビナート地域防災協議会
会長会社
株式会社ENEOSマテリアル
四日市工場長 榎谷昌隆

1981～2025年休業災害363件の分類

〔型 別〕

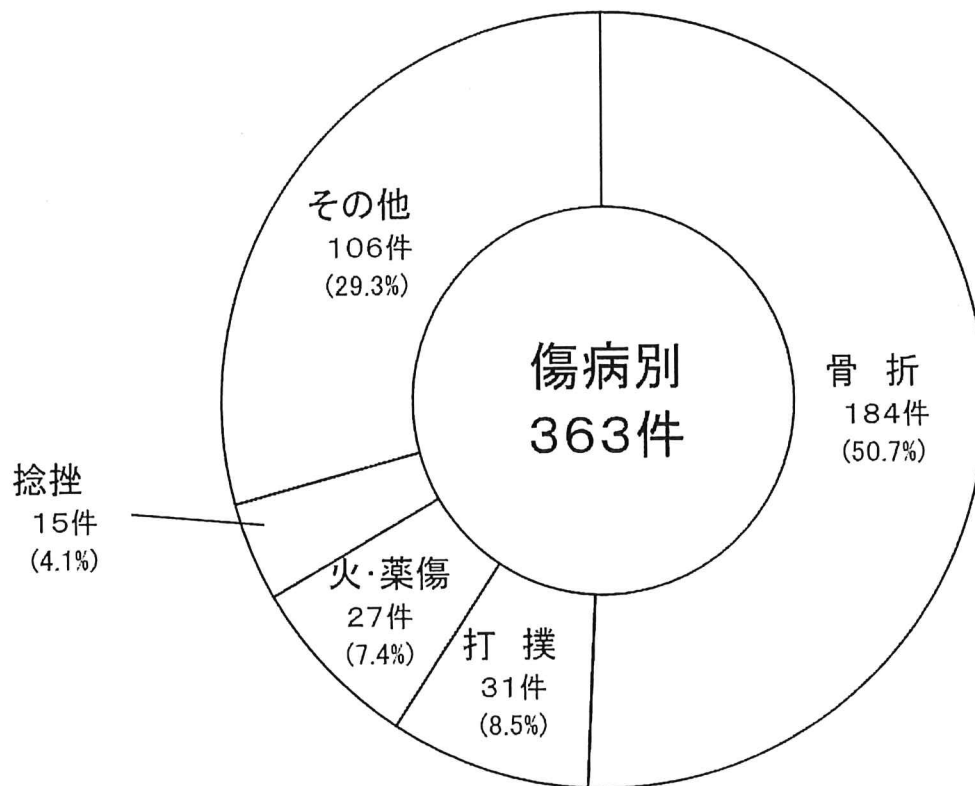
	'81～'15	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
墜落、転落	102		3	3	2	2	2			2	2	118
はさまれ、巻き込まれ	66	3				2	2	1	1			75
転倒	16	1	1	1	1		2	2		4		28
動作の反動、無理な動作	13	1		1	2	4	2	1	2	1		27
飛来、落下	20			1						1	1	23
激突され	18						1		1	1		21
高温・低温の物との接触※	15			2	1	1					2	21
有害物等との接触	15			1		1	1	1				19
切れ、こすれ	11					1			1			13
激突	3			1			1		1	1		7
崩壊、倒壊	5		1									6
感電	2											2
交通事故（道路）	1											1
火災	1											1
踏み抜き										1		1
おぼれ												0
爆破												0
交通事 故（その他）												0
その他の												0
分類不能												0
合 計	288	5	5	10	6	11	11	5	6	11	5	363

（※ 内数：熱中症）（2）（0）（0）（0）（1）（0）（0）（0）（0）（0）（0）（2）（5）



〔傷病別〕

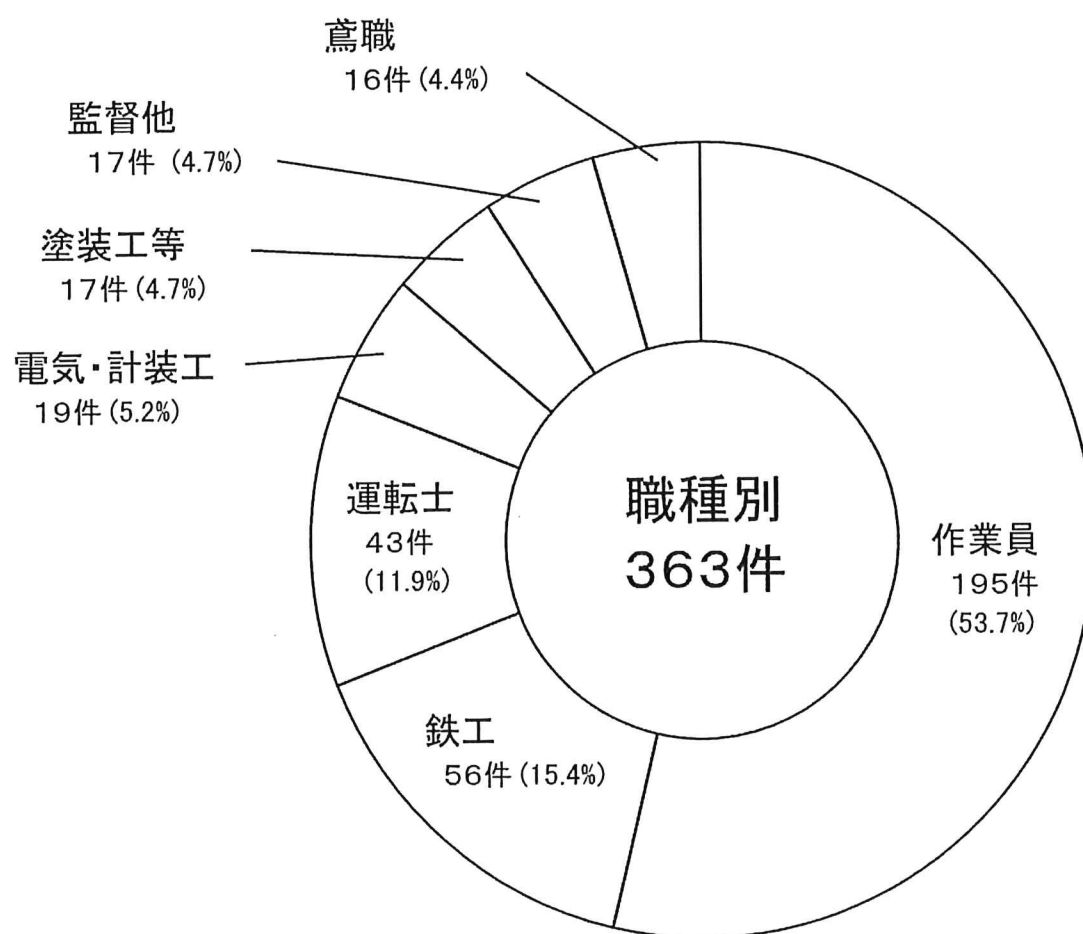
	'81～'15	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
骨 折	154	3	5	4	2	4	5	1	1	4	1	184
打 撲	26			1		1	2			1		31
火・薬傷	26					1						27
捻 挫	8	1				1		1	1	2	1	15
その他	74	1		5	4	4	4	3	4	4	3	106
合 計	288	5	5	10	6	11	11	5	6	11	5	363



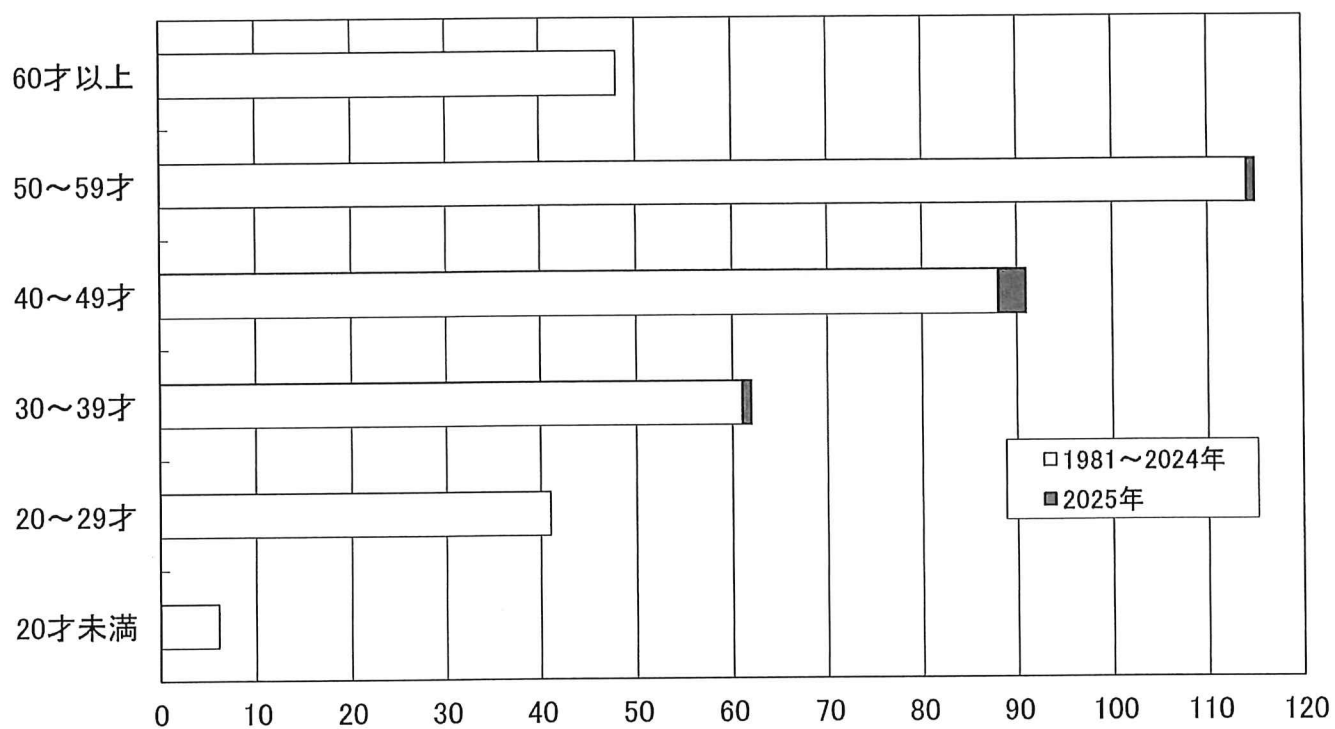
〔職種別〕

	'81～'15	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
作業員 (包装・運搬・清掃等)	145 (12)	4	3	4	5	4	7 (1)	4	5	10 (2)	4	195 (15)
鉄工 (組立・製缶・配管・溶接等)	51 (1)	0	0	3	1	1						56 (1)
運転士 (クレーン・トラック・リフト等)	35	0	0	2		3	2		1			43
電気・計装工	17	0	0	0			1				1	19
塗装工等 (含む大工・左官)	17 (1)	0	0	0								17 (1)
監督他	11	1	1	0		3 (1)				1		17 (1)
鳶職	12 (1)	0	1	1			1	1				16 (1)
合計	288 (15)	5	5	10	6	11 (1)	11 (1)	5	6	11 (2)	5	363 (19)

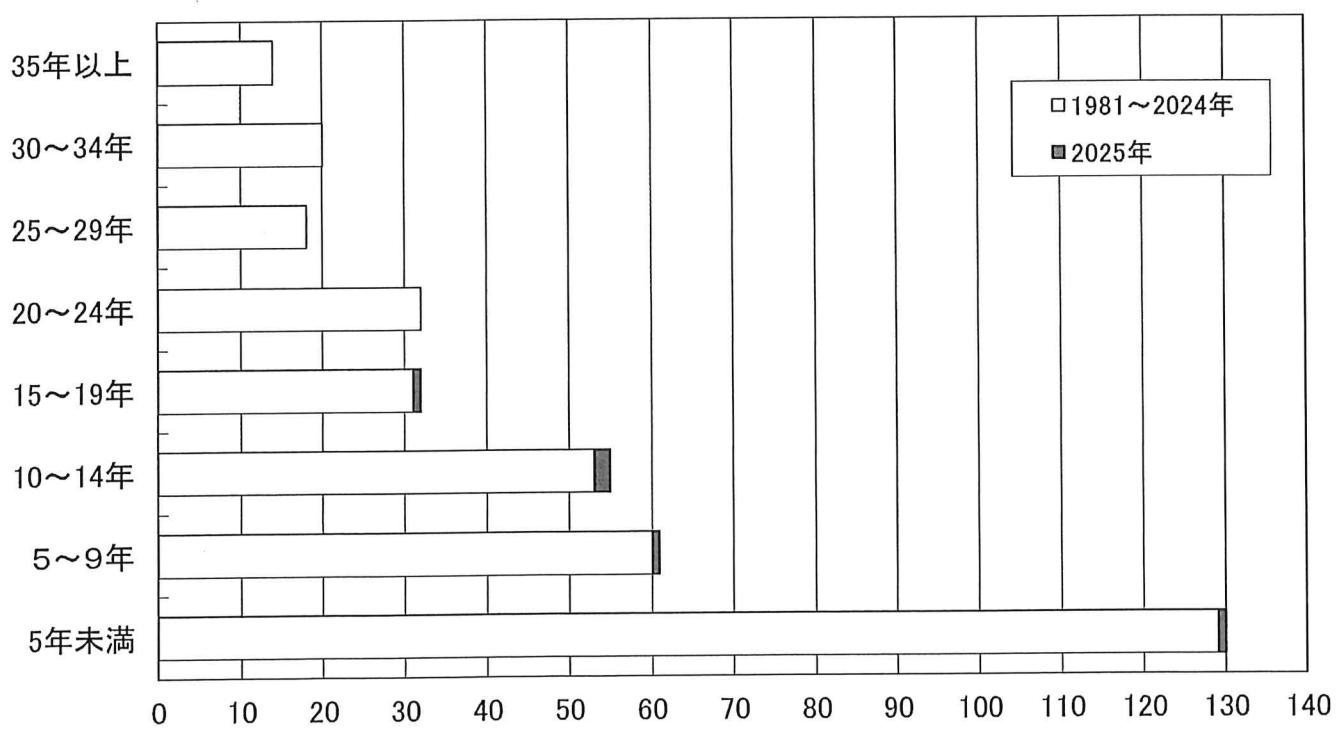
()内は死亡件数(内数で示す)



〔年齢別〕



〔経験年数別〕



〔度数率および強度率〕

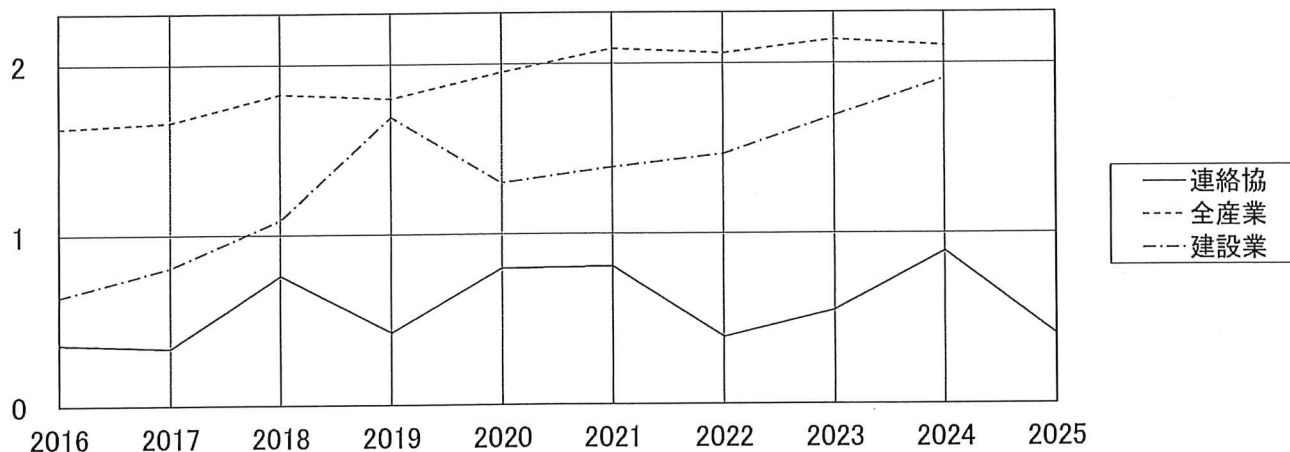
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
四日市 コンビナート 協力会社 (連絡協)	度 数 率	0.36	0.34	0.76	0.43	0.80	0.81	0.39	0.55	0.90	0.41
	強 度 率	0.02	0.03	0.03	0.00	0.72	0.57	0.01	0.02	1.24	0.01
	労働災害による 死傷者数	5	5	10	6	11	11	5	6	11	5
	延べ労働損失日数	260	467	398	67	9,908	7,744	103	235	15,191	100
	延べ実労働時間数 (万時間)	1,380	1,478	1,308	1,406	1,375	1,360	1,272	1,089	1,229	1,224
全産業	度 数 率	1.63	1.66	1.83	1.80	1.95	2.09	2.06	2.14	2.10	6月1日時 点で未公 表
	強 度 率	0.10	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	
建設業	度 数 率	0.64	0.81	1.09	1.69	1.30	1.39	1.47	1.69	1.91	6月1日時 点で未公 表
	強 度 率	0.11	0.18	0.30	0.29	0.24	0.41	0.22	0.29	0.57	

〔注〕1. 度数率には不休労災を含まない。

2. 全産業・建設業は、厚生労働省の統計による。

3. 協力会社は四日市コンビナート地域防災協議会の災害統計による。

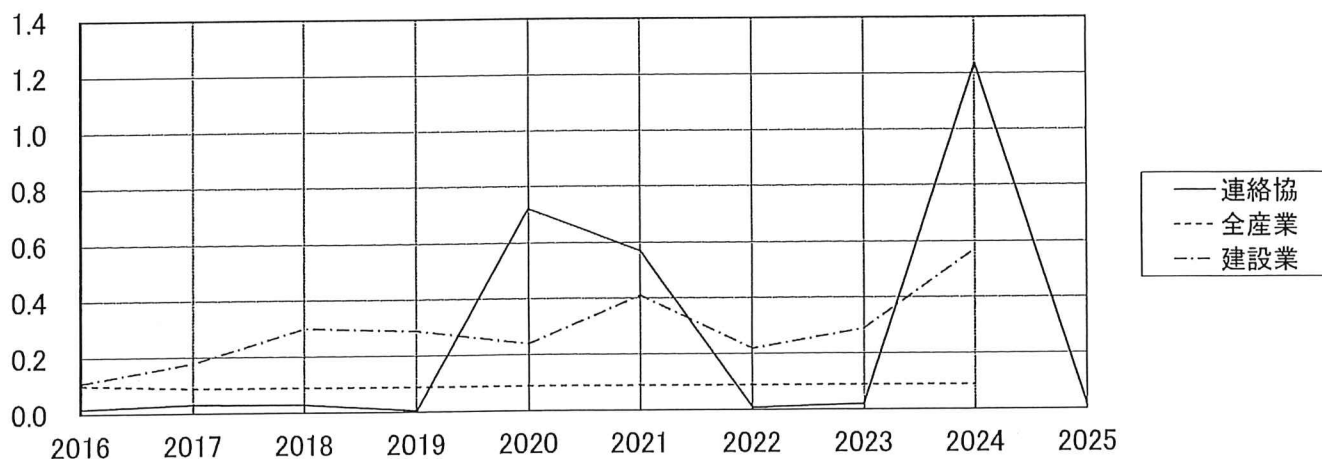
〔度数率の推移〕



度数率 = (労働災害による死傷者数 / 延べ実労働時間数) × 1,000,000

(100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表すもの)

〔強度率の推移〕



強度率 = (延べ労働損失日数 / 延べ実労働時間数) × 1,000

(1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したもの)

災 害 事 例 (休 業 1)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年2月13日(木) 17時40分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		電気工	33才 14年
発 災 時 の 作 業 内 容		2階フロアで仮置きした配管用アングルに、しゃがんだ状態で振り向いた時、墜落制止用器具のフックが当たり、設備とフロアの隙間(約120mm)から配管用アングルが落下し、1階通路を歩行していた電気工の左上腕部に当たった。	
傷 病 名：部 位：程 度		挫傷	頸椎 休業8日
事 故 の 型：起 因 物		飛来、落下	フロア
原 因	不 安 全 な 状 態	・設備とフロアの隙間(120mm)があった。 ・1階通路の立入禁止措置(上部作業中)ができていなかった。	
	不 安 全 な 行 動	・配管用アングルを開口部の近くに置いた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業員に対して安全基本行動(開口部の近くに物を置かない)の指導が不十分だった。 ・「上部で作業を行うときは下部の立入禁止措置をする」指導ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・作業員に対して安全基本行動(開口部の近くに物を置かない)の指導を行い現地で確認する。 ・上部で作業をするときは、下部の立入禁止措置をする。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
1F  2F 			

災 害 事 例 (休 業 2)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月25日(水) 7時25分	建屋内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	44才 18年
発 災 時 の 作 業 内 容		2階にある更衣室で作業服に着替え、階段を降りていた。踊り場に差し掛かる際、足が滑り尻餅をついた。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		捻挫・挫傷	左足関節、左腓腹筋 休業20日
事 故 の 型 ： 起 因 物		墜落、転落	階段
原 因	不 安 全 な 状 態	・床面が濡れており、滑りやすい状態だった。	
	不 安 全 な 行 動	・手摺りを持って昇降していなかった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・手摺を持つ安全基本行動の指導が不足していた。	
再 発 防 止 対 策		・手摺りを持って昇降することを周知する。 ・床面の水分除去をする。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

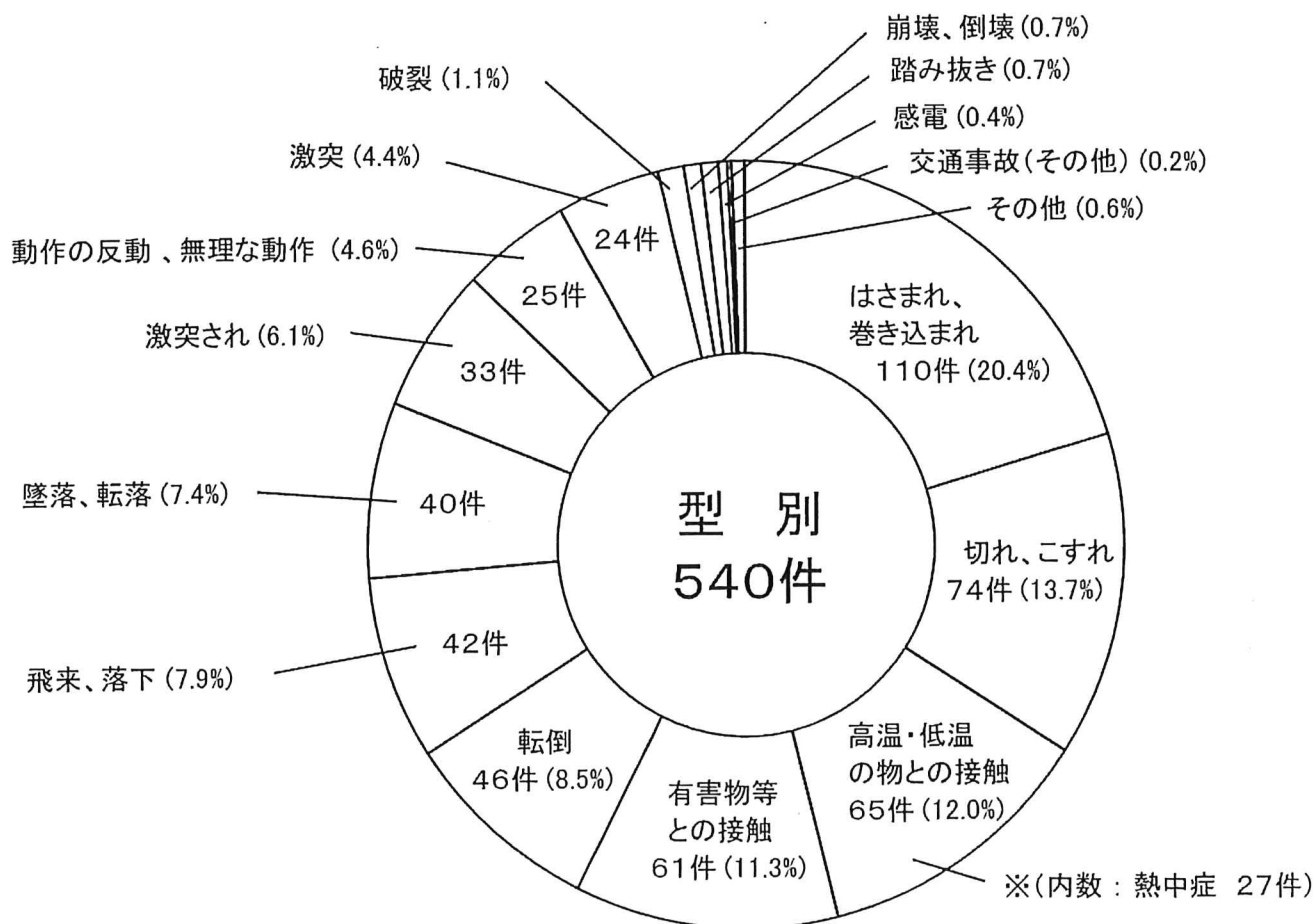
災 害 事 例 (休 業 3)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年8月26日(火) 11時15分	プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	56才 3年6ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		プラント建屋内(2階)で消火器点検を行い、部屋の扉を開けて足を踏み入れた時通路がなく、約2.5mの高さから転落した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		骨折	鎖骨、肋骨 休業90日
事 故 の 型 ： 起 因 物		墜落、転落	通路
原 因	不 安 全 な 状 態	・床面が無い状態の場所に対する立入禁止措置がされていなかった。	
	不 安 全 な 行 動		
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・立入禁止措置をしていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・転落等のリスクがある場所には立入禁止措置を行う。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

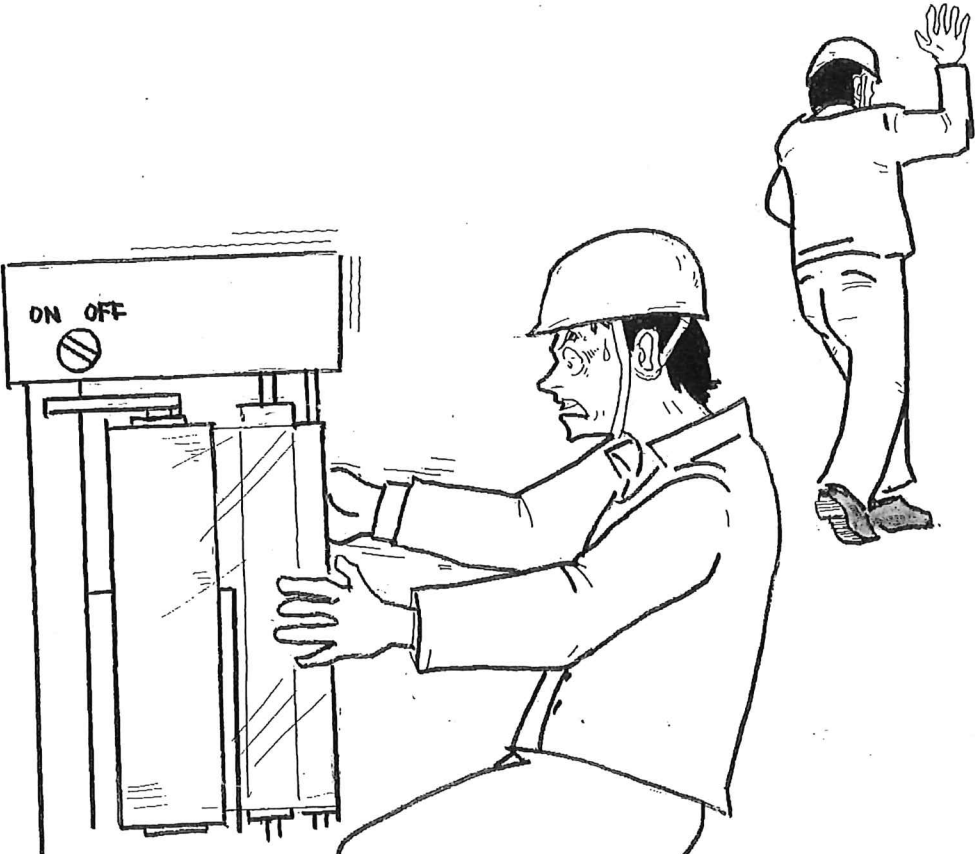
1984～2025年不休業災害540件の分類

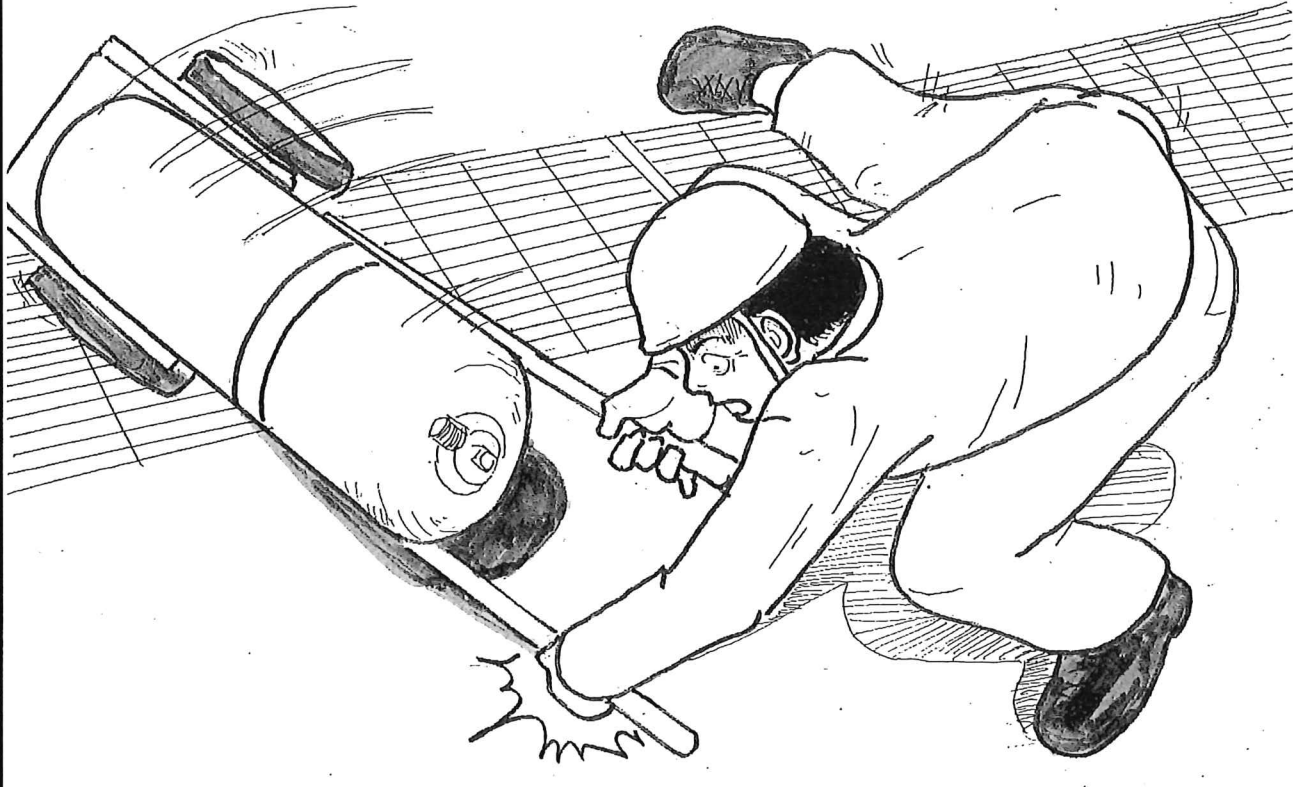
〔型 別〕

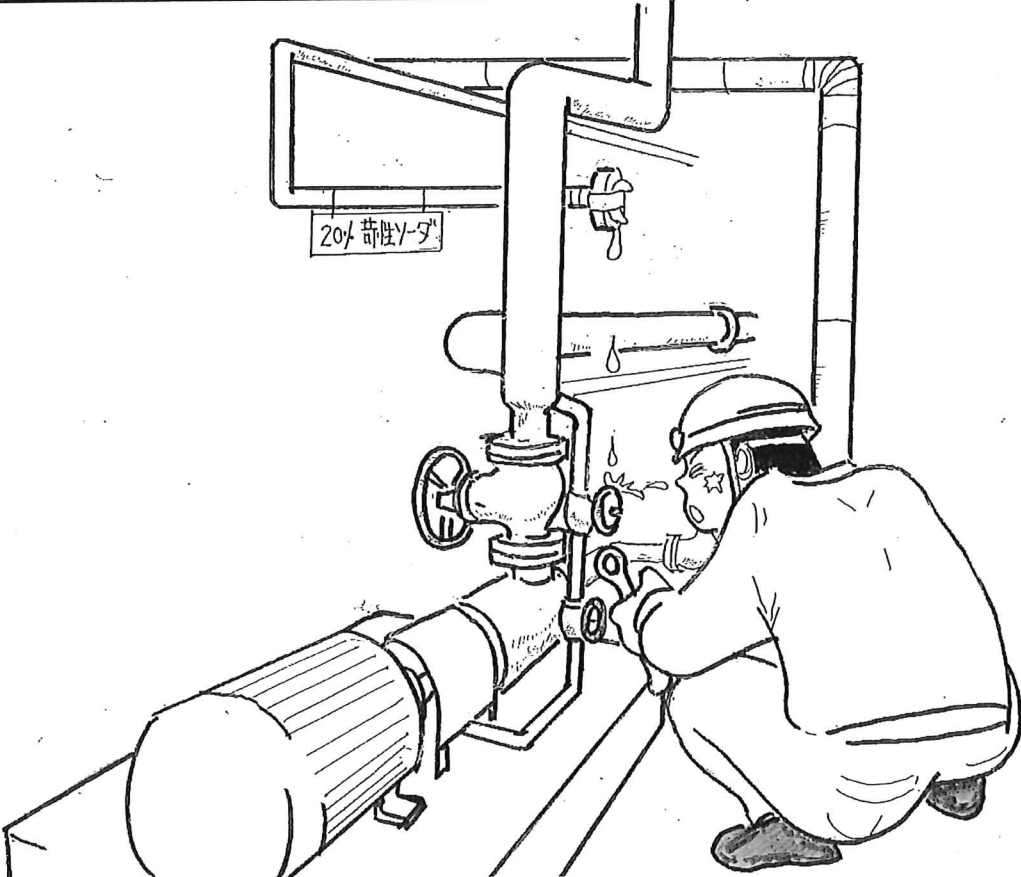
	'84～'15	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
はさまれ、巻き込まれ	62	2	5	4	6	3	5	3	3	2	15	110
切れ、こすれ	42	5	1	1	3	3	4	4	2	3	6	74
高温・低温の物との接触※	28	2	3	8	5	1	3	7	2	3	3	65
有害物等との接触	28	4	4	2	5	1	6	5	2	2	2	61
転倒	23	5	4	3	1			2	4	3	1	46
飛来、落下	25	2	1			3	4	1	2	2	2	42
墜落、転落	28	1	1	1	1			3		4	1	40
激突され	12		1	2		2	2		3	4	7	33
動作の反動、無理な動作	15		2			2	1	1	1		3	25
激突	14	2		1				3	1	2	1	24
破裂	6											6
崩壊、倒壊	3			1								4
踏み抜き	3				1							4
感電	1					1						2
交通事故（その他）	1											1
交通事故（道路）												0
おぼれ												0
爆発												0
火災												0
その他			2				1					3
分類不能												0
合 計	291	23	24	23	22	16	26	29	20	25	41	540

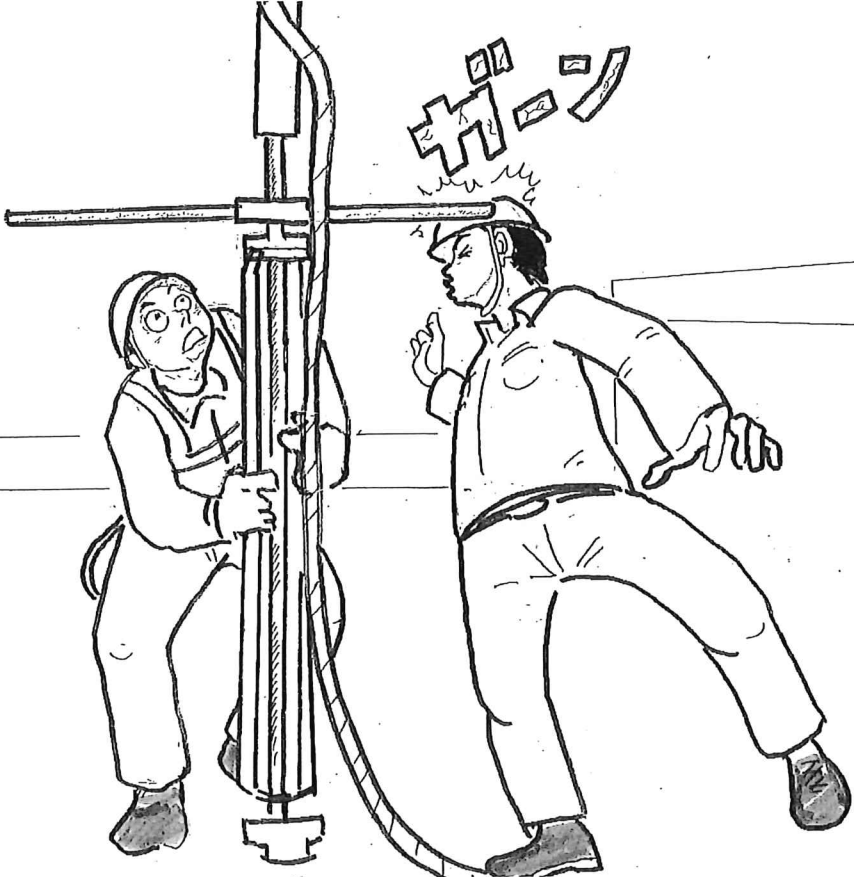
（※ 内数：熱中症）（7）（0）（2）（0）（4）（1）（2）（6）（2）（1）（2）（27）

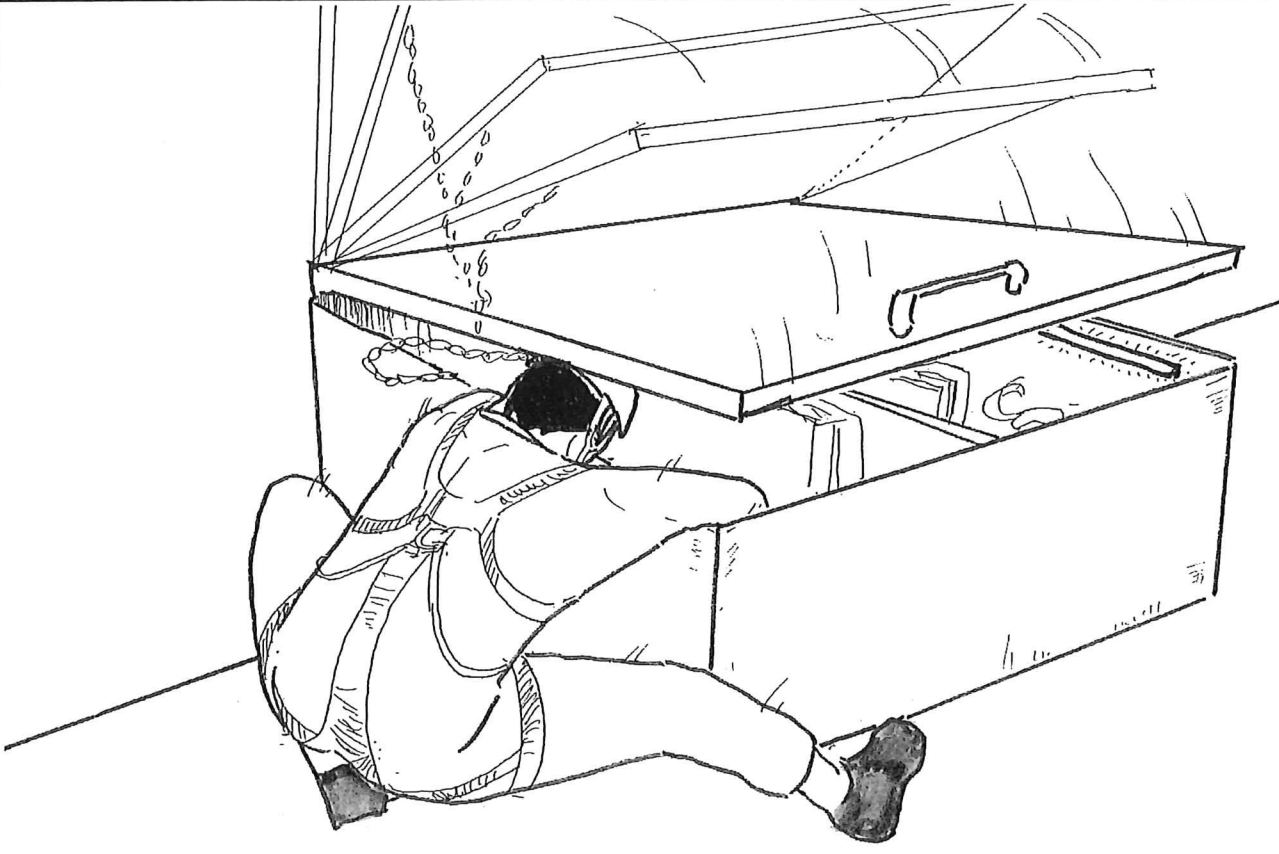


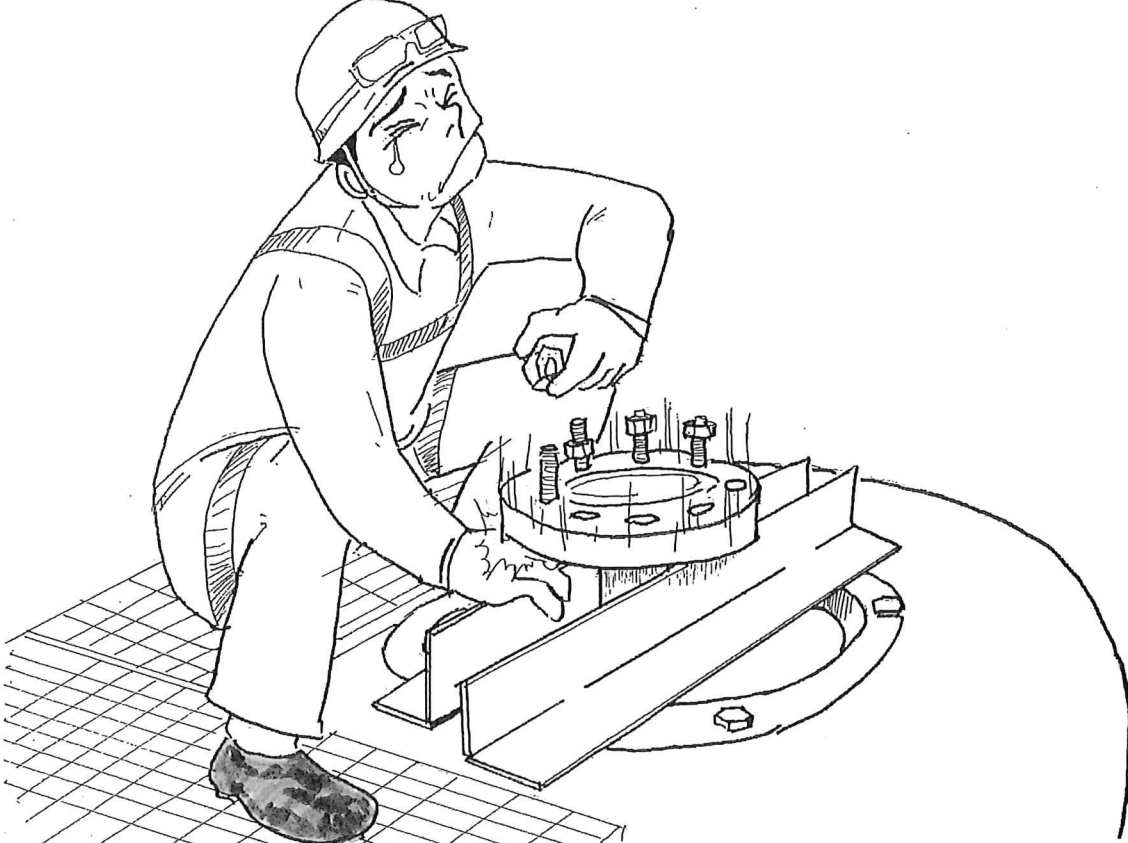
災 害 事 例 (不 休 業 1)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年1月27日(月) 11時30分	倉庫内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	42才 13年
発 災 時 の 作 業 内 容		作業員Aがパレタイズ作業を行っていた際、フィルムを交換する準備をしていた。その際、別作業が入り、作業途中であったが、作業員B(被災者)とフィルム交換作業を交代した。 作業員Bは、ローラー部の電源がOFFにされていると思い込み、交換作業を開始した。作業中、センサーが反応し、ローラーが動き出したため、手が巻き込まれた。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		表皮剥離	右手中指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	パレタイザー
原 因	不 安 全 な 状 態	・パレタイザーローラー部の電源がONになっていた。	
	不 安 全 な 行 動	・パレタイザーローラー部の電源がOFFになっていることを確認しなかった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・フィルム交換時に電源をOFFにすることを周知していなかった。	
再 発 防 止 対 策		・フィルム交換時は電源をOFFにすることを徹底する。 ・作業途中で交代があった時は、電源がOFFになっていることを確認して作業を開始する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

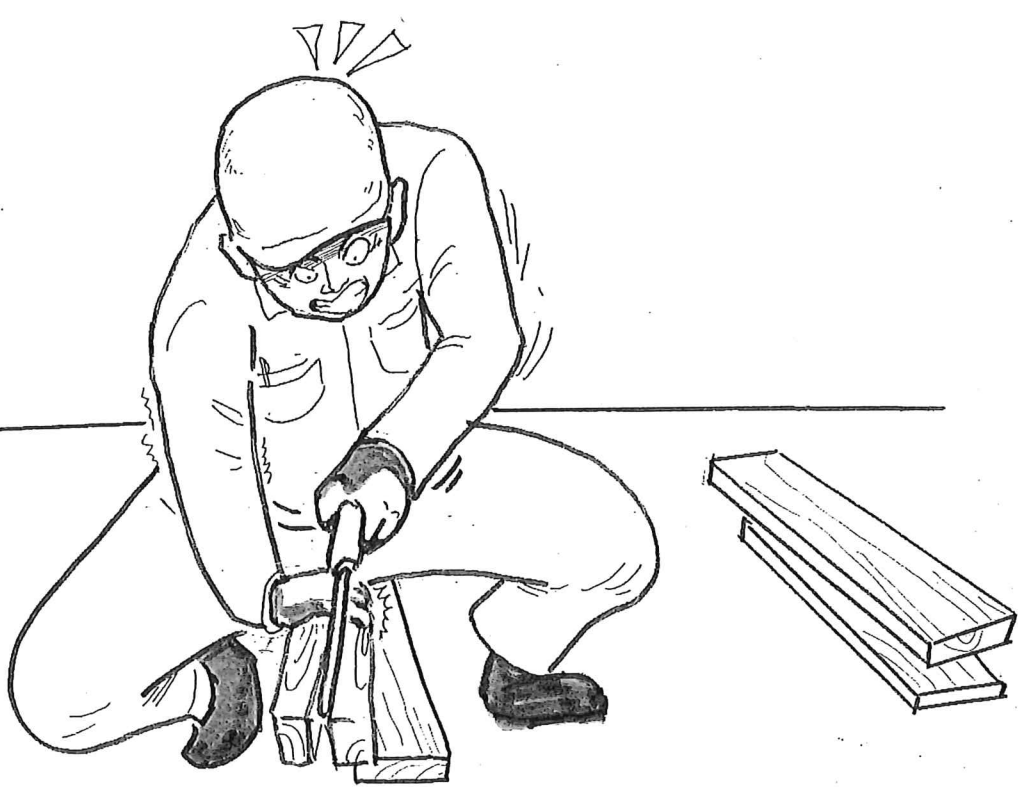
災 害 事 例 (不 休 業 2)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年3月6日(木)	9時30分：構内道路
職 種：年 齢：経 験		鉄工	57才：41年
発 災 時 の 作 業 内 容		窒素ボンベを手押し台車で運搬していた。台車の後輪がグレーチングの隙間へ引っ掛かった際、台車が折損した。その際にバランスを崩し台車が転倒して、台車の持ち手と地面で手を挟んだ。	
傷 病 名：部 位：程 度		打撲・裂傷	：左手中指：不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	：台車
原 因	不 安 全 な 状 態	・台車は製作後30年以上経過しており、部品が劣化していた。 ・タイヤの幅がグレーチングの隙間より小さかった。	
	不 安 全 な 行 動	・老朽化している台車を使用した。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・台車の使用前点検を行わせていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・台車の使用前点検を行わせるようにして、現地で確認する。 ・台車に限らず、現場で使用する機工具は使用前点検を確実に行うよう指導し、現場で確認する。 ・台車は全タイヤの幅をグレーチングの隙間より大きいものとする。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 3)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年3月13日(木) 10時30分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		鉄工	58才 8年
発 災 時 の 作 業 内 容		20%苛性ソーダ配管のつまり解除作業が完了せず、延期になったため、配管フ ランジ部へウエスを詰めて養生を行った。 翌日、別の作業員が脱水機ストレーナーの清掃作業を行っていた際、上部フラ ンジから内部に残っていた20%苛性ソーダが滴り落ちて被液した。	
傷 病 名：部 位：程 度		薬傷	顔 不休業
事 故 の 型：起 因 物		有害物等との接触	配管フランジ
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 配管内部に20%苛性ソーダが残っていた。	
	不 安 全 な 行 動	・ 周囲の安全を確認せず作業をした。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 事前の安全確認が不十分だった。(客先) ・ 周囲の安全確認をする指示が出来ていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 事前に作業エリアの安全確認を行い、有害物があった場合は、事前に適切な 処置を行う。(客先) ・ 作業員は、周囲の安全確認をした後に作業を行う。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 4)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年3月17日(月)	11時 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	18才 1年
発 災 時 の 作 業 内 容		反応器洗浄中にエアホースが洗浄用治具に絡まったため、手動で回転させ絡まりを解く際、付属部品が回転し被災者に接触した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		打撲	頭部 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		激突され	付属部品
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 付属部品の可動領域に立っていた。	
	不 安 全 な 行 動	・ 付属部品の可動領域に人がいる状態で作業を行った。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 可動領域の立入禁止措置ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 可動領域の立入禁止措置を周知し、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

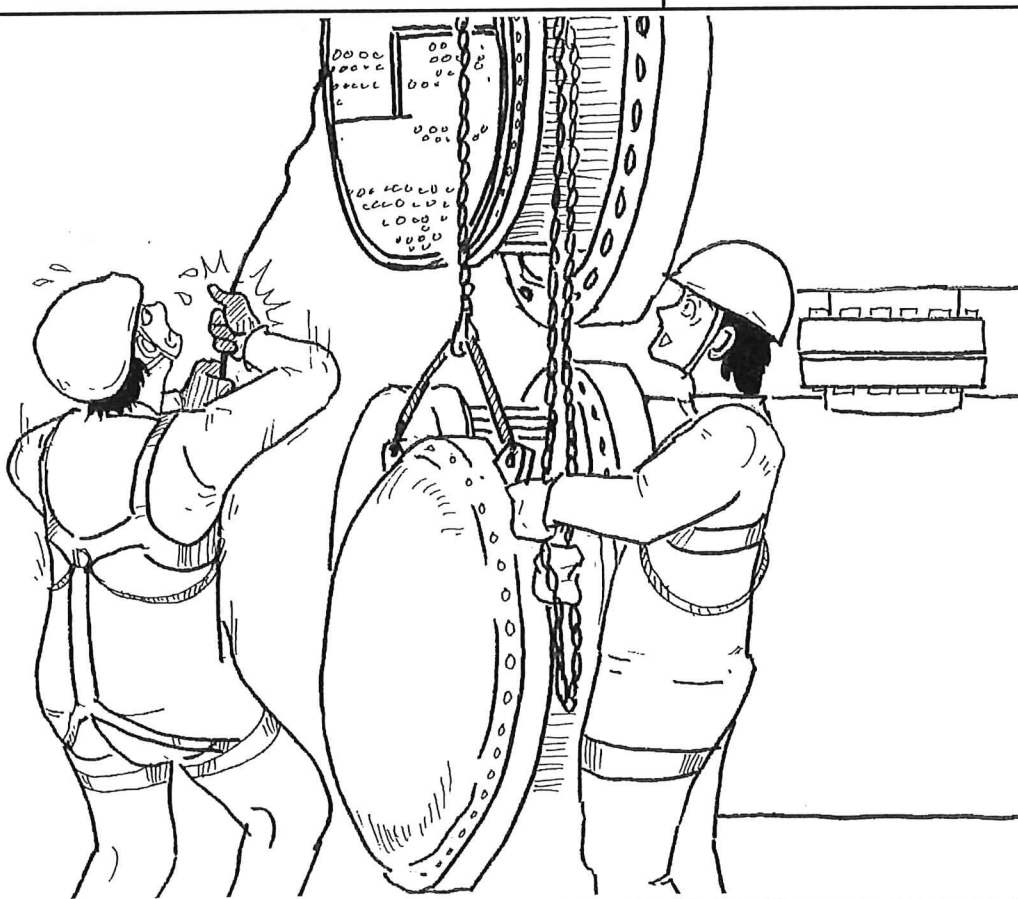
災 害 事 例 (不 休 業 5)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年4月8日(火)	16時：工場内
職 種：年 齢：経 験		作業員	19才：1年
発 災 時 の 作 業 内 容		工具箱(1200mm×850mm、16kg)の上蓋を開き、使用工具を片付けていたところ、体の一部が「開きすぎ防止チェーン」に接触して上蓋が閉じ顔面を挟まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		裂傷(8針縫合)	下唇：不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	工具箱
原 因	不 安 全 な 状 態	・「開きすぎ防止チェーン」が短く、蓋が内側に倒れやすい状態だった。	
	不 安 全 な 行 動	・「閉防止ストッパー」を使用しなかった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・「閉防止ストッパー」を使用する指導をしていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・「閉防止ストッパー」を使用する。(開きすぎ防止チェーンの長さを調整する)	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

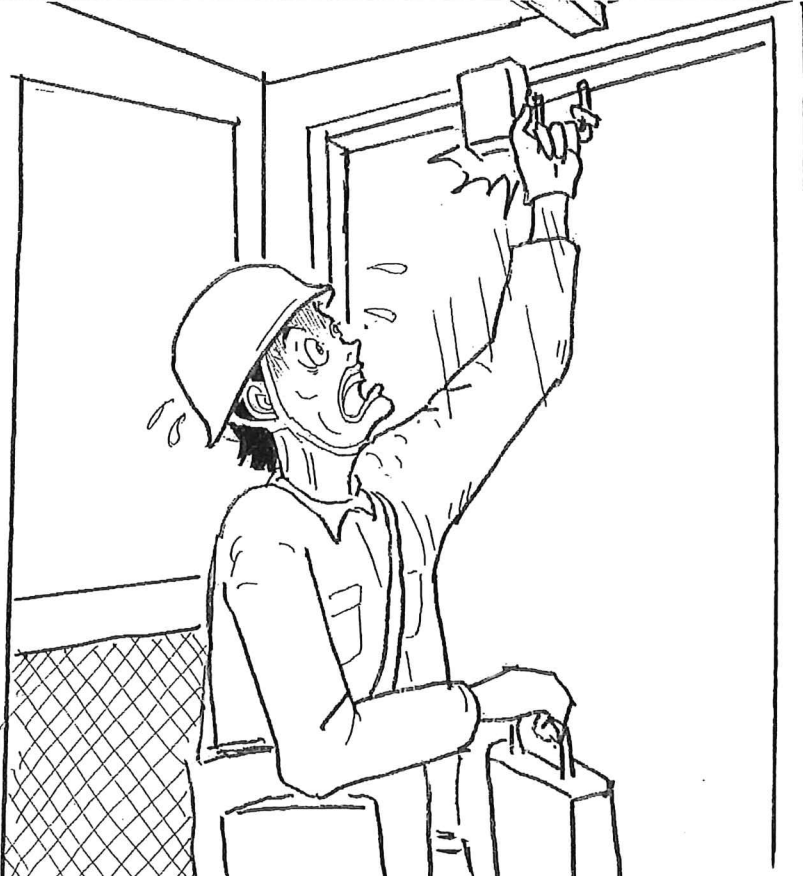
災 害 事 例 (不 休 業 6)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年4月19日(土) 10時30分	プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鉄工	32才 6年
発 災 時 の 作 業 内 容		落下防止用治具(隙間部分に滑り防止用のゴム板を挟み込んだ状態)を使用し、 攪拌機軸のフランジを持ち上げていた。その後、フランジを動かし穴位置を調整 していた際、ゴム板が外れてフランジが落下し治具との間で手を詰めた。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		骨折	右手人さし指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		激突され	落下防止用治具
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 落下防止用治具とフランジボルト穴が干渉していた。	
	不 安 全 な 行 動	・ 攪拌機軸の固定方法(落下防止用治具)が不適切だった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 落下防止用治具で固定した攪拌機軸が滑り落ちるというリスクに対する検討 が不十分であった。	
再 発 防 止 対 策		・ 槽内からジャッキ等を使用し、攪拌機軸を持ち上げる方法に変更する。 ・ 本事例を周知し現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

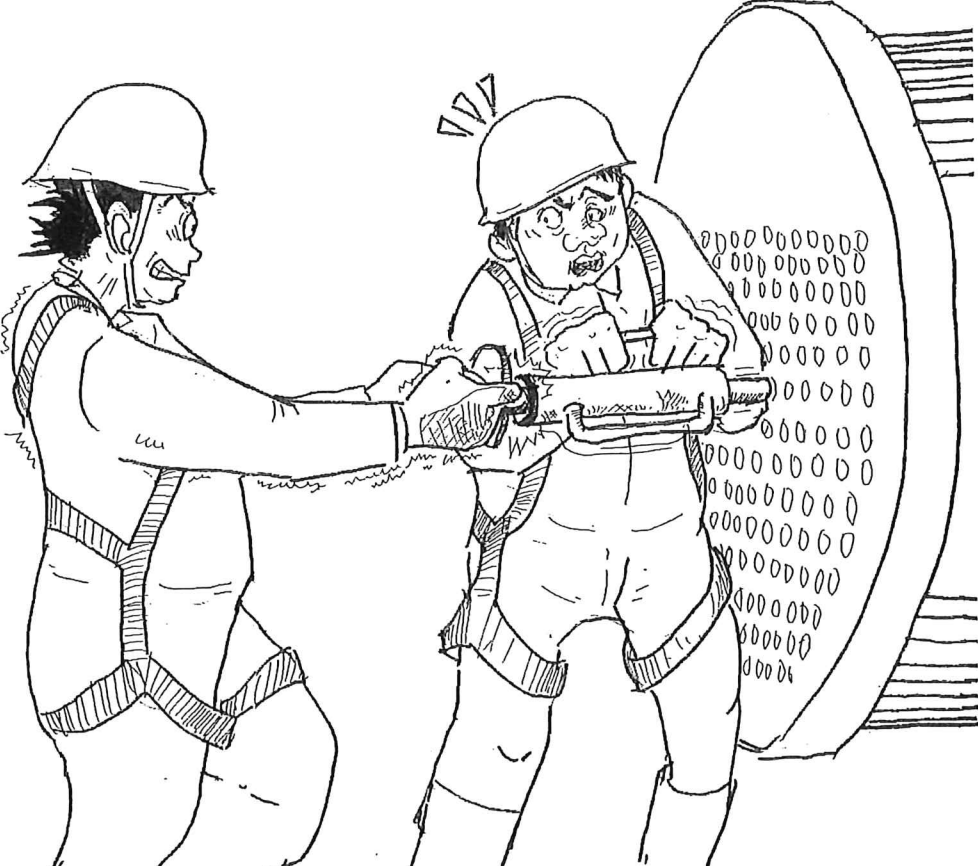
災 害 事 例 (不 休 業 7)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年4月24日(木)	13時45分：プラント内
職 種：年 齢：経 験		作業員	34才：8年
発 災 時 の 作 業 内 容		木材をノコギリで加工中、刃が滑り木材を抑えていた手に接触した。	
傷 病 名：部 位：程 度		切創	：右手小指：不休業
事 故 の 型：起 因 物		切れ、こすれ	：ノコギリ
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・ノコギリの進行方向に手を置いていた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ノコギリの進行方向に手を置かない指導が不十分だった。 ・刃物取り扱い時の耐切創手袋使用の基準がなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ノコギリの進行方向に手を置かない指導を行い、現地で確認する。 ・刃物取り扱い時の耐切創手袋使用を基準として、関係者に教育指導し、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

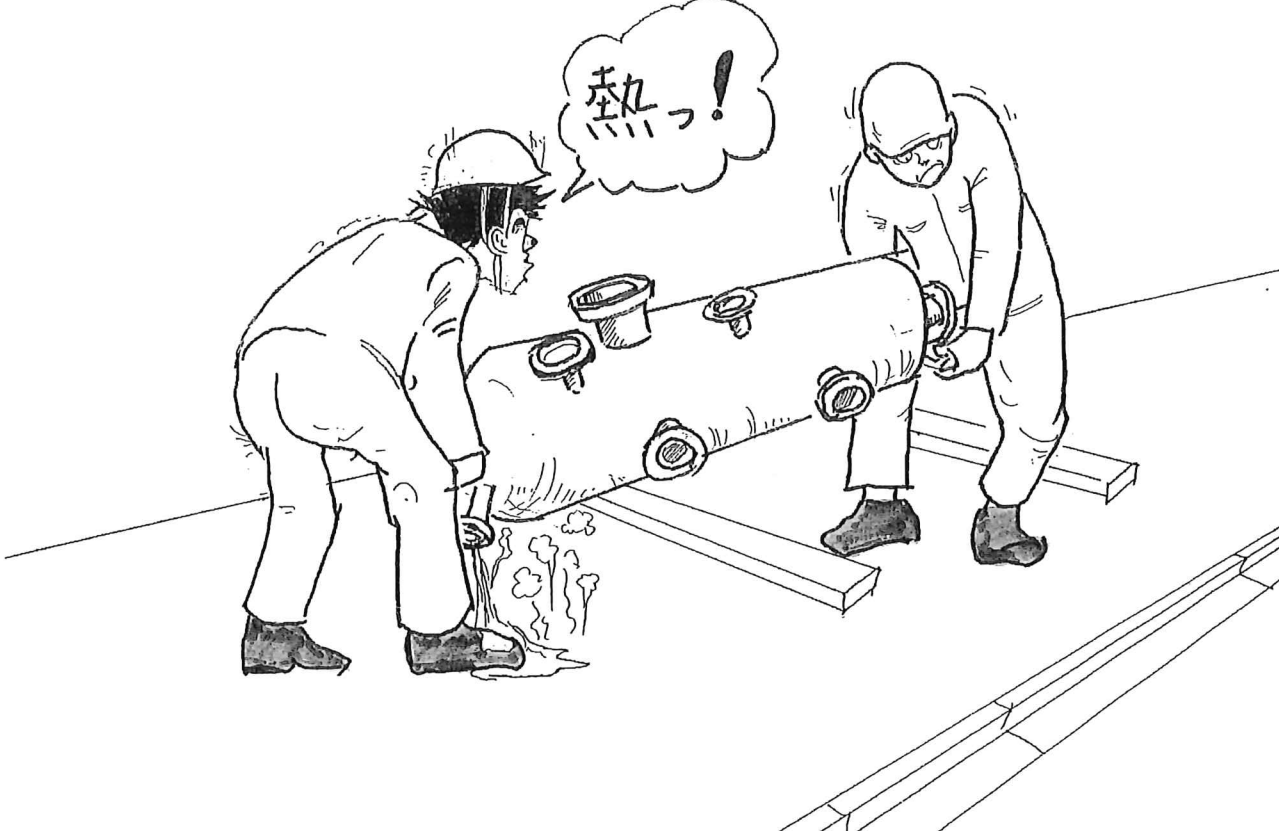
災 害 事 例 (不 休 業 8)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年4月25日(金) 13時30分	倉庫
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	43才 1年9ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		バック包装作業場で、被災者が経路上にあった計量器を飛び越えた際、転倒し、足首を捻った。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		捻挫	右足首 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		転倒	計量器
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 計量器と製品パレットの距離が40 cmと狭い状態だった。	
	不 安 全 な 行 動	・ 小走りで計量器を飛び越えた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 製品パレットの置く位置を定めておらず、安全通路を確保していなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 製品パレットと計量器の距離を広げ、製品パレットの置く位置を表示する。 ・ 作業員に対し、小走りで飛び越えるといった不安全行動をしないよう指導する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			無し

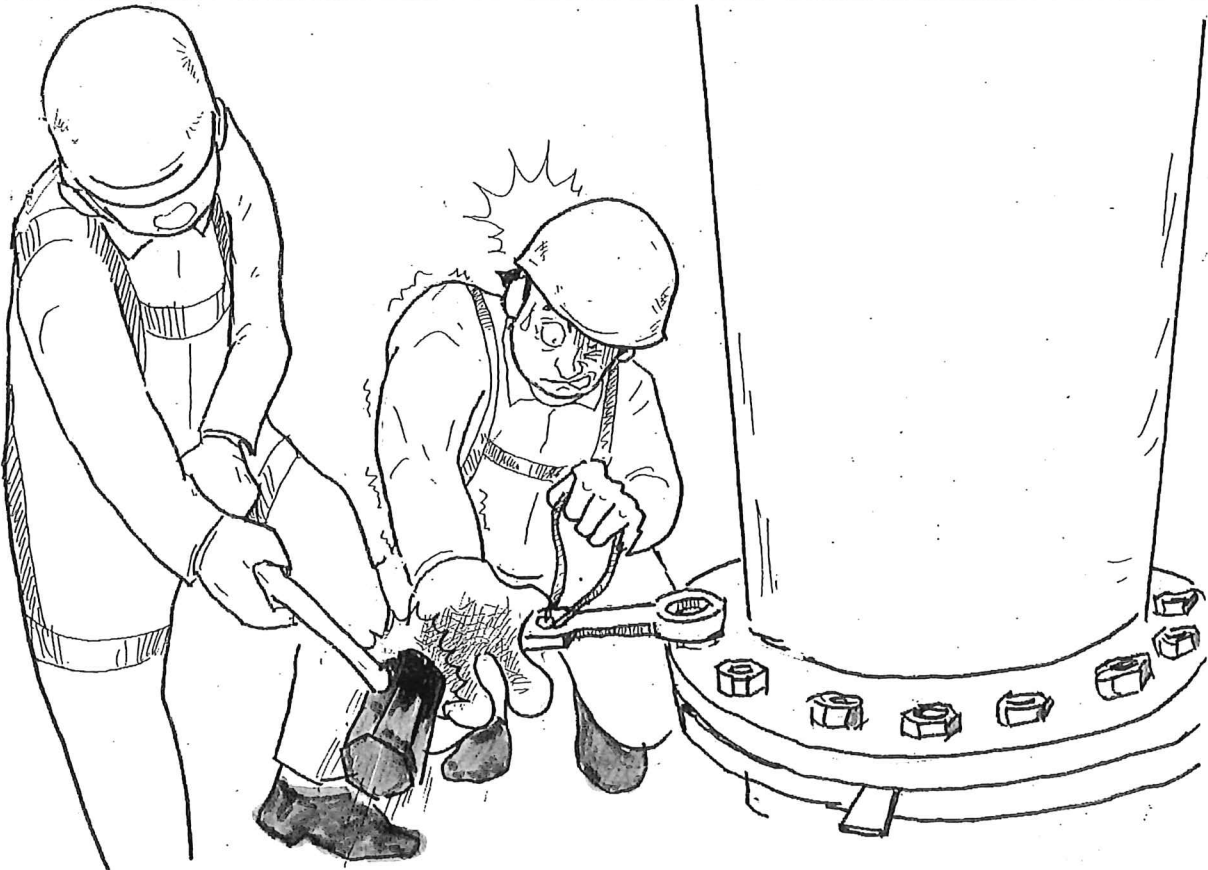
災 害 事 例 (不 休 業 9)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年5月20日(火)	9時30分 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	36才 7年
発 災 時 の 作 業 内 容		浮屋根式タンクのアウターポンツーン上で作業を行った後、天板に降りようとして飛び降りた際(高さ660mm)バランスを崩して、足を捻り負傷した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		捻挫	左足首 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		動作の反動、無理な動作 アウターポンツーン	
原 因	不 安 全 な 状 態	・天板とアウターポンツーンに段差(660mm)があった。	
	不 安 全 な 行 動	・天板に飛び降りた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・安全基本行動の教育が不足していた。	
再 発 防 止 対 策		・安全基本行動の教育を行い、現地で指導する。 昇降用の歩廊があれば、これを使用することを基本とする。 建築基準法の上限230mmを超えるような段差の移動が必要な場合は、「手を添える」「しゃがみ込む」「後ろ向きに移動する」などの安全な体勢で昇降を行う。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づく リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

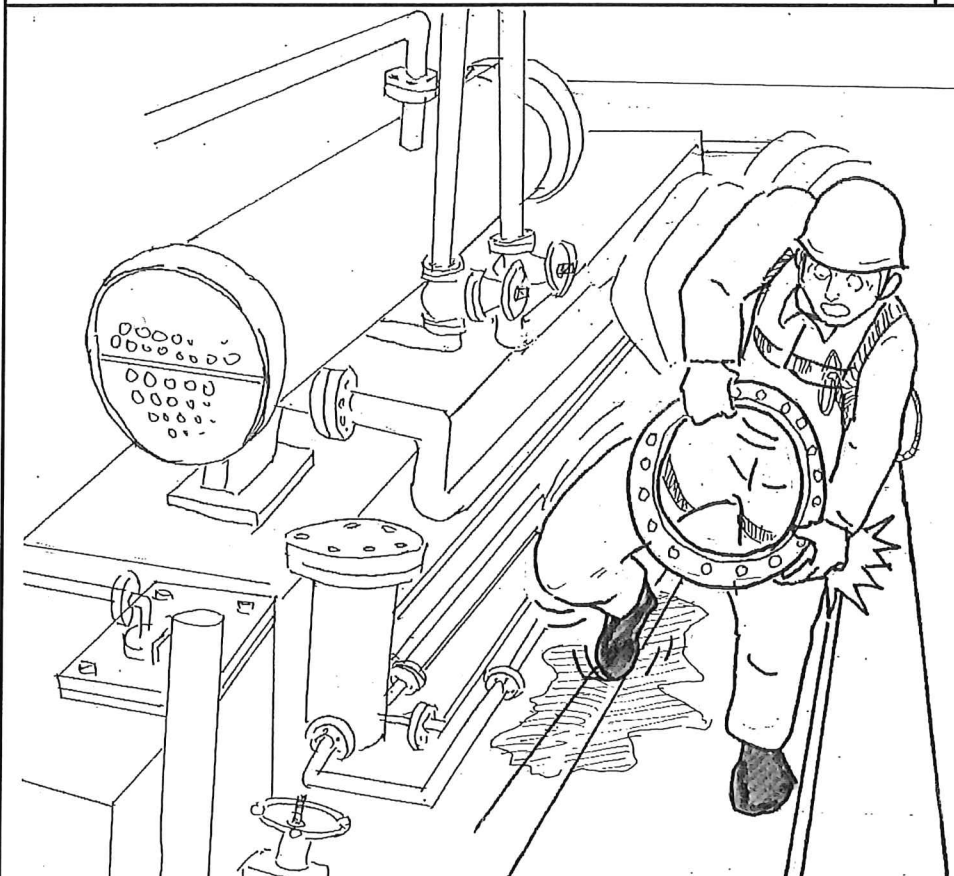
災 害 事 例 (不 休 業 10)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月3日(火) 13時50分	プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	24才 6年
発 災 時 の 作 業 内 容		熱交換器の開放作業中、メタルガasketの一部が紐状に垂れており、作業に支障があったため手で引っ張ったところ、ゴム手袋を貫通し手を切創した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		伸筋腱断裂	右手親指・小指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		切れ、こすれ	メタルガasket
原 因	不 安 全 な 状 態	・メタルガasketの一部が紐状に垂れていた。	
	不 安 全 な 行 動	・紐状に垂れていたメタルガasket（鋭利な金属）を引っ張った。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・想定外の事象が発生した場合は、作業を一旦止めて、作業方法を調整する指導ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・想定外の事象が発生した場合は、作業を一旦止めて、作業方法を調整する。 (番線カッター等で切断する)	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

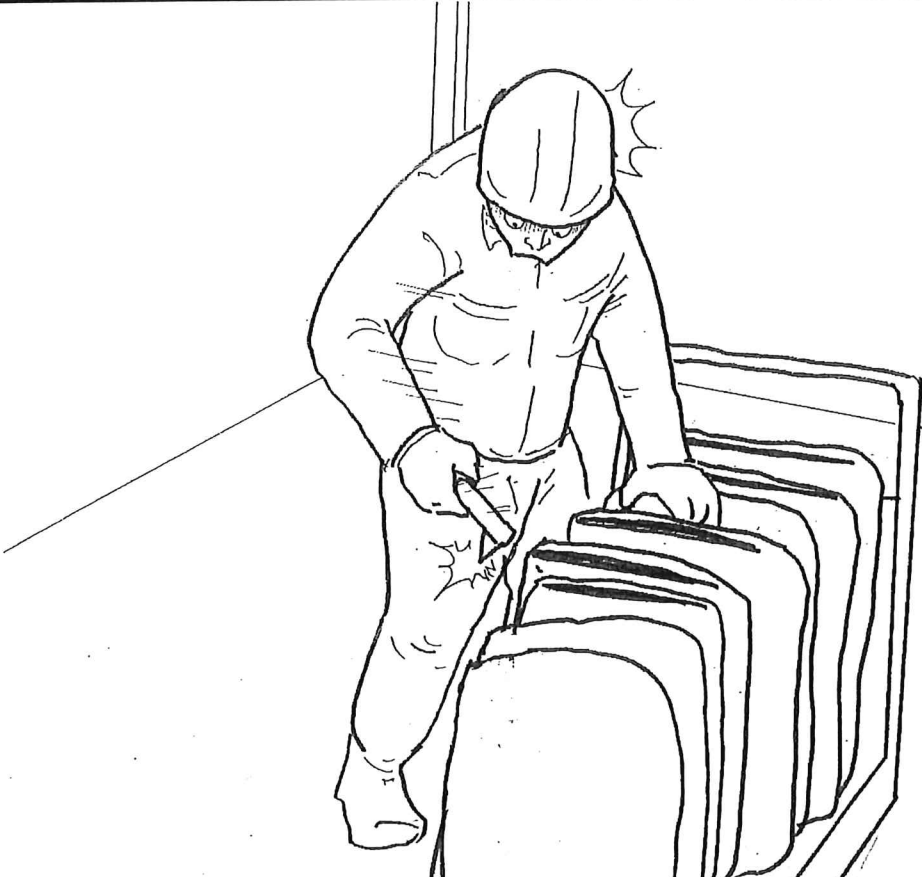
災 害 事 例 (不 休 業 11)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月14日(土) 14時30分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		検査員	32才 7年
発 災 時 の 作 業 内 容		肉厚測定検査として、仮設エレベーター利用。 仮設エレベーターの内部から扉(上下開閉式)を開けた(上げる)際、ハンドルから指が離れず勢い余って、上部の突起物に手を挟まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		骨折	左手親指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	ハンドル
原 因	不 安 全 な 状 態	・ハンドルを上げた時の位置に突起物があった。	
	不 安 全 な 行 動	・勢いよく開閉を行った。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・手を挟む構造を放置していた。	
再 発 防 止 対 策		・ハンドルの構造を変更し、挟まれないようにする。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 12)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月17日(火) 12時45分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		鉄工：67才	8年
発 災 時 の 作 業 内 容		熱交換器チューブ管端部の接続部材の取り外し作業で、矢とプーラー(治具)を使用していた。(プーラーを動かすことで、打ち込んだ矢と共に接続部材が抜ける) 被災者はひかかりをなくす調整を行っていた際、指が矢のつばの内側に入っており、別の引抜作業者がプーラーを動かしてしまい、つばとプーラーに指が挟まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		骨折	左手人さし指：不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	プーラー
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・指を矢のつばの内側に入れた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業方法の指導が不足していた。	
再 発 防 止 対 策		・つばの外側つまみにロープを付けて調整する作業方法に変更し、現地で確認し指導する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 13)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月17日(火)	15時 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鳶職	34才 7年
発 災 時 の 作 業 内 容		内部のスチーム洗浄が完了したオイルリザーバータンクを仮置き場へ運搬しようと2人でタンクを持ち上げた際、タンクが傾き内部に残っていた熱水が被災者にかかった。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		火傷(熱傷Ⅱ度)	右足甲 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		高温・低温の物との接触	熱水
原 因	不 安 全 な 状 態	・タンク内部に熱水が残っていた。	
	不 安 全 な 行 動	・タンク内部を確認せずに運搬した。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・スチーム洗浄は、タンク内部に熱水が溜まることを教育していなかった。	
再 発 防 止 対 策		・作業着手前に、作業員に対して、スチーム洗浄はタンク内部に熱水が溜まるリスクがあることを教育する。 ・運搬する時は、タンク内部に熱水がないことを確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

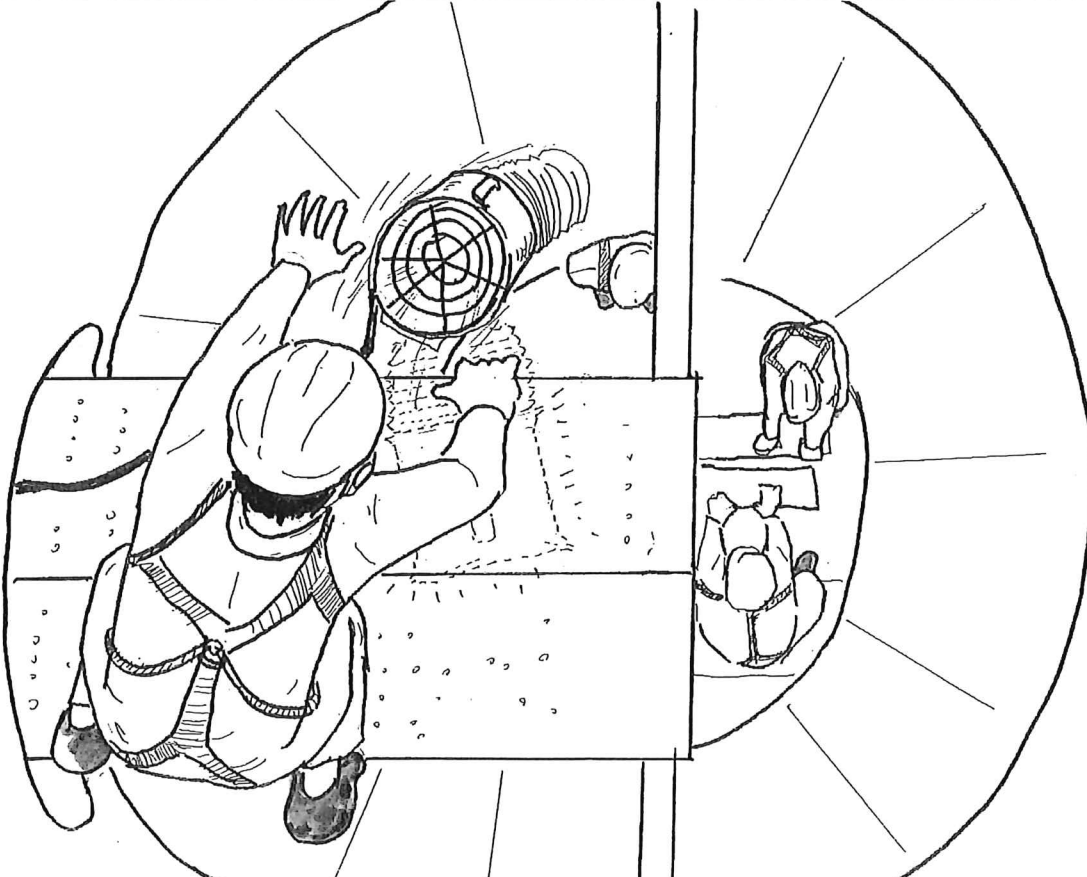
災 害 事 例 (不 休 業 14)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月18日(水)	9時20分 プラント内
職 種：年 齢：経 験		鉄工	33才 9年
発 災 時 の 作 業 内 容		フランジ締結作業を2人で行っていた。被災者が(持ち手)が打撃スパナの掛け替えを行おうと手を出した際、共同作業者がハンマーを振り下ろし、ハンマーと打撃スパナに被災者の手が挟まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		打撲 裂傷	右手中指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		激突され	打撃スパナ
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・持ち手が打撃スパナを掛け替えるために手を出してしまった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・取り決めたことの周知ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・持ち手は、作業中手を出さない。 ・作業開始前に取り決めたことを周知する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

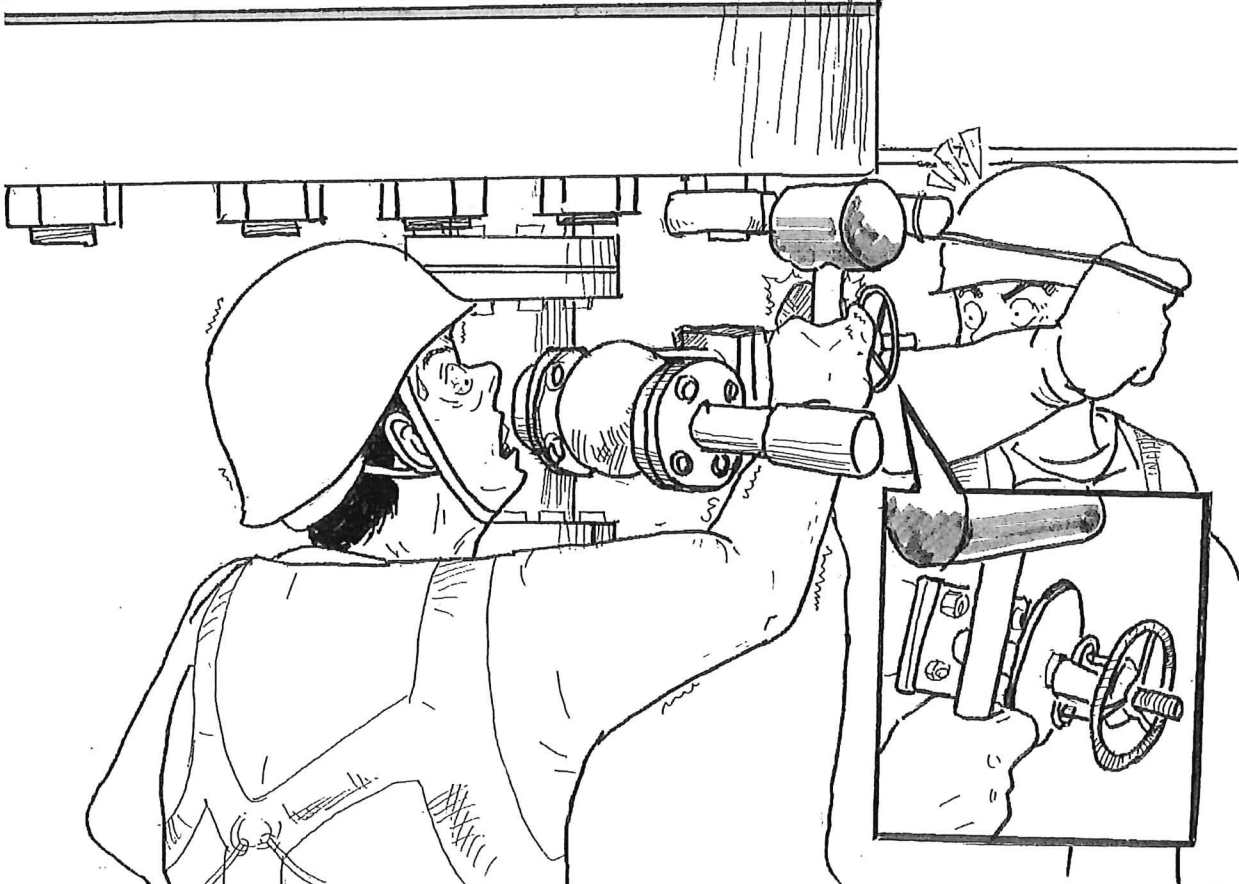
災 害 事 例 (不 休 業 15)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月24日(火)	8時 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鉄工	29才 7年
発 災 時 の 作 業 内 容		テストリング運搬時、足元が滑り態勢を崩し、テストリングと防油堤との間に指を挟んだ。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		骨折	左手中指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	通路
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 通路が雨水と油污りで滑りやすかった。	
	不 安 全 な 行 動	・ 重量物を1人で運搬しようとした。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 重量物用のヤグラを設置させなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 作業箇所の床が油等による汚れがある場合は、吸着マット等で油等を除去する。 ・ 重量物用のヤグラを設置する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

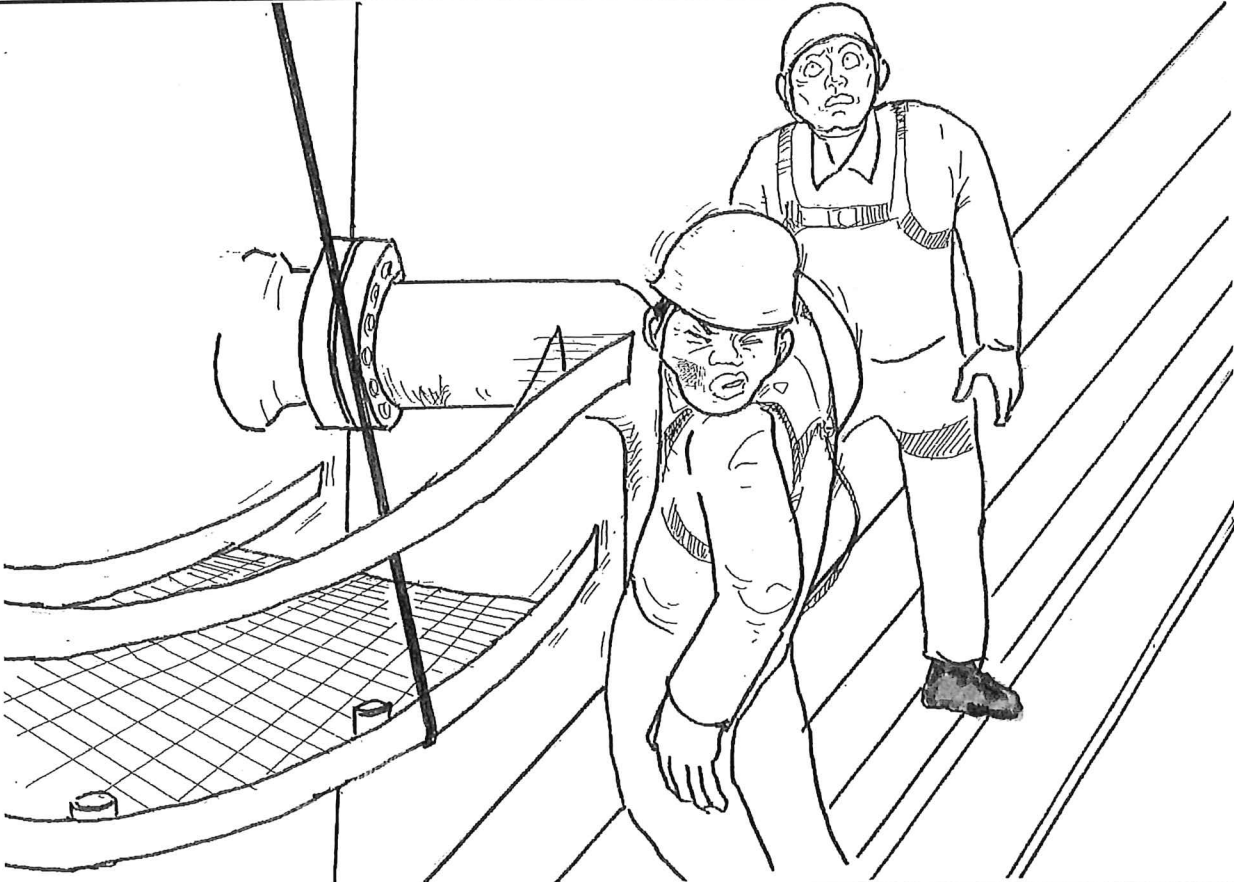
災 害 事 例 (不 休 業 16)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月24日(火)	9時5分：工場内
職 種：年 齢：経 験		作業員	26才：10ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		紙袋(25 kg)を並べて三角刃で切り込みを入れていた際、勢いよく作業したことで、三角刃が足に当たった。	
傷 病 名：部 位：程 度		挫創(長さ2 cm、深さ1 cm)	： 右足： 不休業
事 故 の 型：起 因 物		切れ、こすれ： 三角刃	
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・切り込みを入れる延長線上に足を置いていた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業員に対して安全基本行動(延長線上に身体を置かない)の指導ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・切り込みを入れる際は、延長線から離れた位置に身体を置いて作業を行うように指導し、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づく リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			無し
			

災 害 事 例 (不 休 業 17)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月27日(金) 10時10分	プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鉄工	67才 30年
発 災 時 の 作 業 内 容		ボイラー蒸気配管に仮止めしていた検査用管台を除去し、蒸気配管の復旧を棒グラインダーで行っていた時、ディスクが割れて作業員の腕に接触した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		切創	左腕 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		切れ、こすれ	グラインダー
原 因	不 安 全 な 状 態	・狭所で障害物が多い作業環境だった。	
	不 安 全 な 行 動	・棒グラインダーに適合しないディスクを使用した。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業環境に応じた工法、工具の事前検討及び整合性の確認が不足していた。	
再 発 防 止 対 策		・狭所で障害物があるなどの作業環境に応じた工法及び工具の事前検討を実施する。 ・選定した工法及び適切な仕様の工具の取り扱い方法について教育し現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

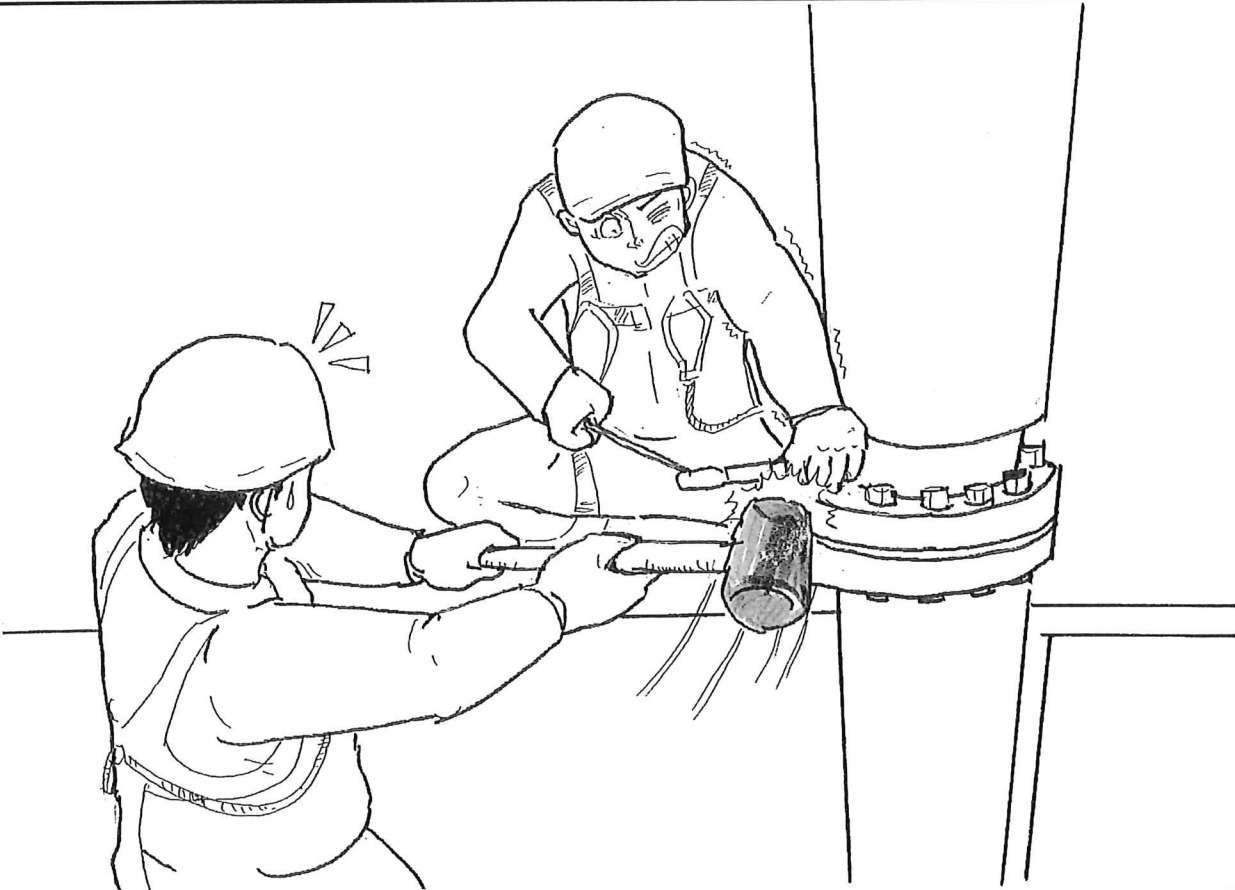
災 害 事 例 (不 休 業 18)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年6月28日(土) 14時15分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		作業員	50才 1ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		機器内部点検後、作業員2名で安全柵を復旧していた際、1名の作業員が安全柵と機器の間に左手を挟んだ。	
傷 病 名：部 位：程 度		打撲	左手親指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	安全柵
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 機器と安全柵の隙間が狭かった。	
	不 安 全 な 行 動	・ 安全柵と機器との間に手を置いた。 ・ 片手で持った。(安全柵がフラつき傾いた)	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 立ち位置、持ち方・持ち位置の指導が不足していた。 ・ 浅い経験者に対しての安全教育が不足していた。	
再 発 防 止 対 策		・ 安全柵上部を両手で持つことと立ち位置を安全柵の正面になるようにして作業を行う。 ・ 安全柵復旧作業の手順教育を行い、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

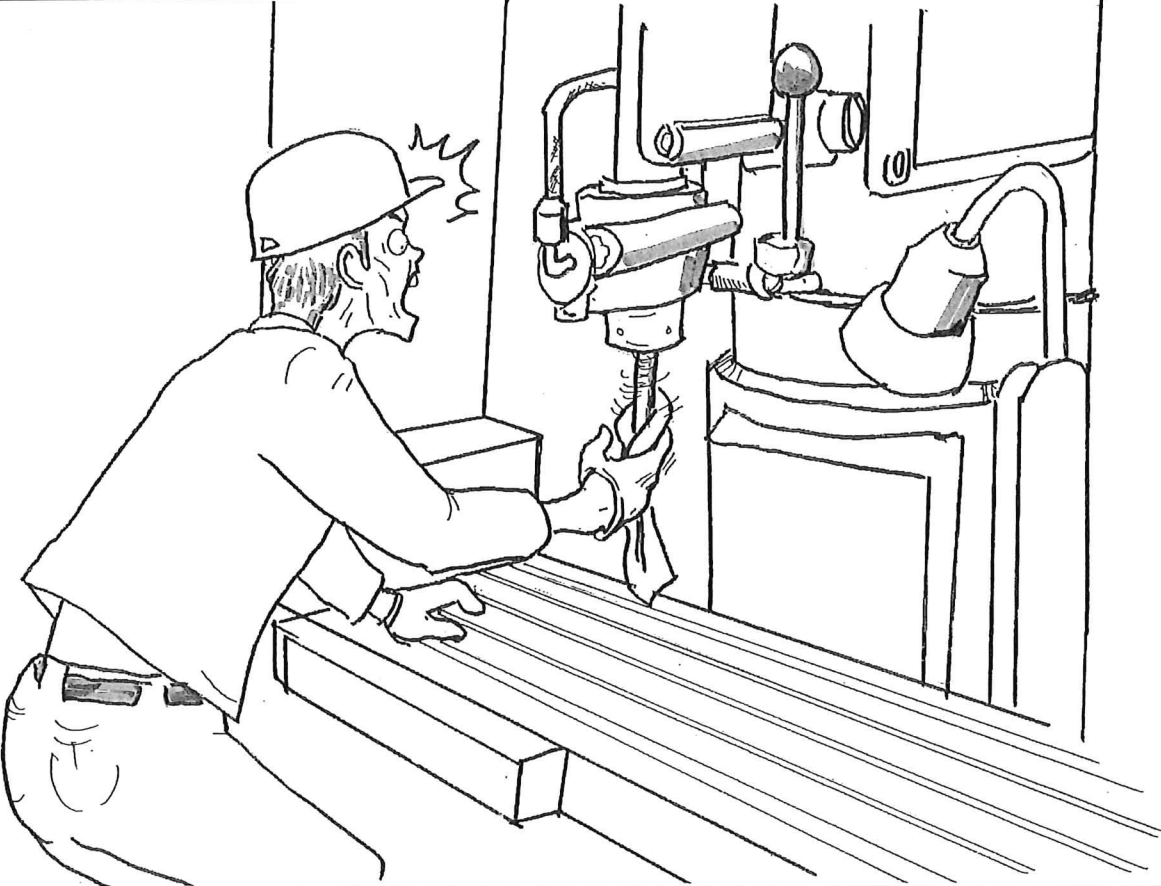
災 害 事 例 (不 休 業 19)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月7日(月) 14時28分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		鉄工	47才 2年
発 災 時 の 作 業 内 容		作業環境改善のため塔内に設置したブロワーの蛇腹ホースが吸い込み方向に取付けられていた為、送風側に取り付け直した際、蛇腹ホースの重みでブロワーが落下し、下部で作業していた作業員に当たった。	
傷 病 名：部 位：程 度		打撲・捻挫	頭部、頸椎 不休業
事 故 の 型：起 因 物		飛来、落下	ブロワー
原 因	不 安 全 な 状 態	・上下作業をしていた。	
	不 安 全 な 行 動	・取り付け直した後、ブロワーを固定しなかった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・上下作業における作業手順の共有、安全確認に対する指導が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・当初計画していた作業内容が変更になった際は、一旦作業を止めて、作業方法を取り決め、作業を再開する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

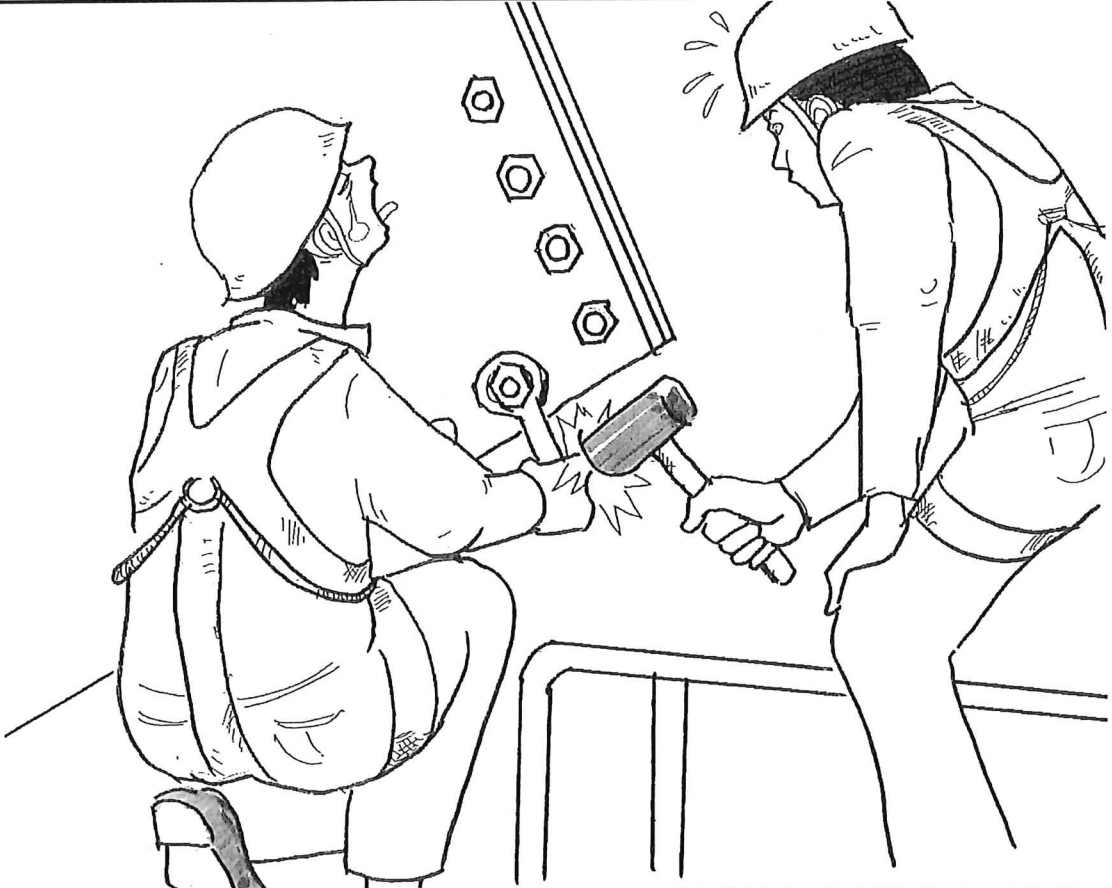
災 害 事 例 (不 休 業 20)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月10日(木)	15時40分 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鷹職	29才 4年
発 災 時 の 作 業 内 容		熱交換器のフランジボルトを復旧していた際、握っていたハンマーの柄と放熱板の間に指を挟んだ。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		骨折	右手人さし指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	フランジ
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 作業場所が狭かった。	
	不 安 全 な 行 動	・ 本体フランジの本締めを行う前に付帯配管を復旧してしまった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 作業手順を決めて指導していなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ フランジ復旧作業における安全な作業方法、注意事項を織り込んだ手順に改訂して教育し、現地で確認指導する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 21)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月11日(金) 12時40分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		鉄工	29才 1年
発 災 時 の 作 業 内 容		ステージの復旧作業中、フロア手摺の中棧が配管に引っ掛かり、それが外れた際、近くで作業をしていた被災者に当たった。	
傷 病 名：部 位：程 度		歯欠損	前歯 不休業
事 故 の 型：起 因 物		激突され	中棧
原 因	不 安 全 な 状 態	・ステージと中棧が固定されていなかった。(片側端部が左右に振れている状態)	
	不 安 全 な 行 動	・中棧が配管に引っ掛かったにも関わらず作業を継続した。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ステージと中棧を固定する指示がされていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・作業前にレバブロックや番線等でステージと中棧を固定する。 ・中棧が配管に引っかかった時は作業を一旦中断し、安全を確認してから作業を再開する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

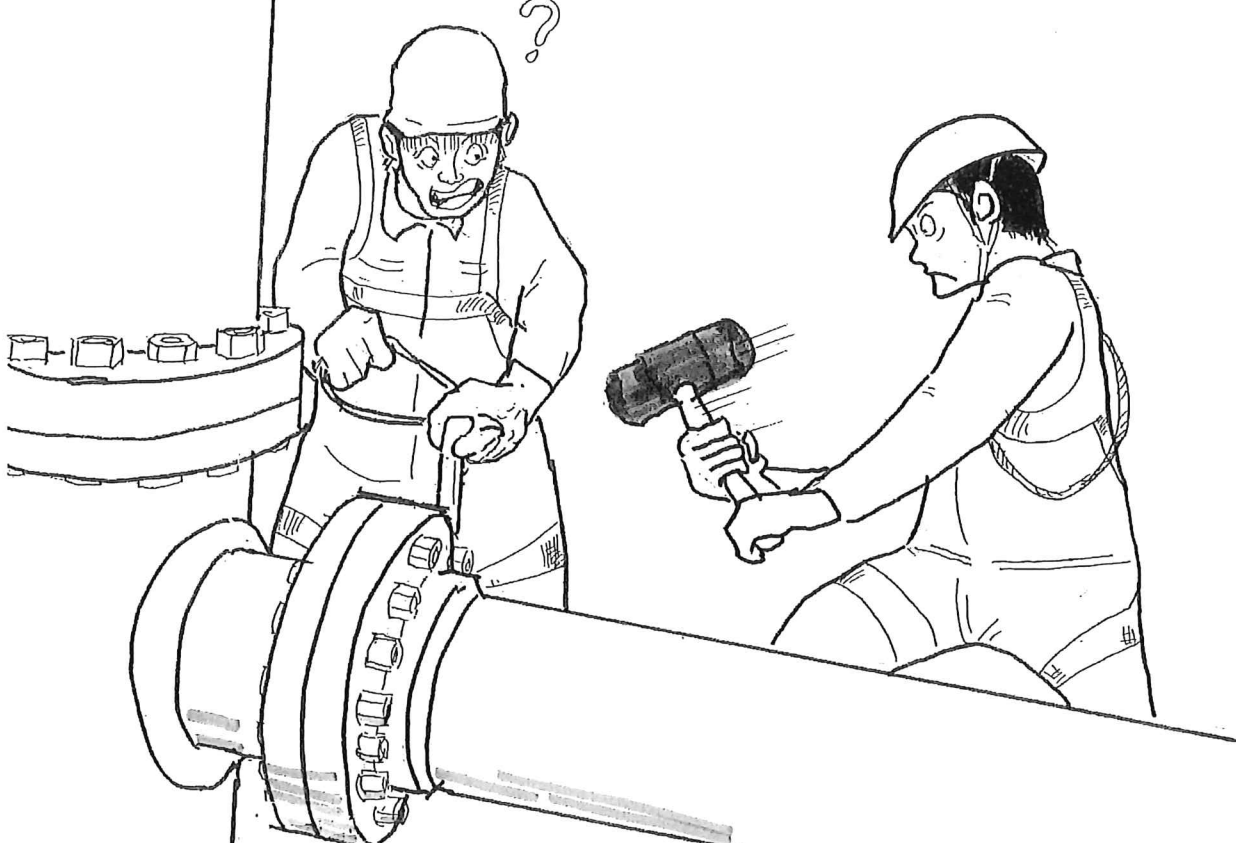
災 害 事 例 (不 休 業 22)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月15日(火) 9時30分	計器室
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		監督他	21才 3年3ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		床に置いた養生シートをカッターナイフで切断している際、誤って手を切創した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		切創	左手親指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		切れ、こすれ	カッターナイフ
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・ 刃物の進行する延長線上に手を置いていた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 養生シートカッター等の専用工具を使用する指導ができていなかった。 ・ 刃物使用時の安全教育を実施していなかった。 ・ 耐切創手袋装着のルールがなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 養生シートカッター等の専用工具を使用する。 ・ 刃物使用時の安全教育を実施する。 (刃物の進行する延長線上に手を置かない、耐切創用手袋装着、他)	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 23)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月18日(金) 10時20分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		鉄工	52才 20年
発 災 時 の 作 業 内 容		入槽用仕切り板抜き取り作業を2人で行っていた。本締め作業時、被災者(持ち手)が打撃スパナの掛け替えを行おうと手を出した際、タイミングが合わず、ハンマーと打撃スパナに被災者の手が挟まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		骨折	左手人さし指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		激突され	打撃スパナ
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・持ち手が打撃スパナを掛け替えるために手を出してしまった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・取り決めたことの周知ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・持ち手は、作業中手を出さない。 ・作業開始前に取り決めたことを周知する	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 24)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月18日(金) 15時55分	工場内
職 種：年 齢：経 験		作業員	83才 57年
発 災 時 の 作 業 内 容		フライス盤での機械部品加工を終了し掃除を開始した際、エンドミル(約10回転/分)にウエスが接触し軍手が巻き込まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		切断・骨折	右人さし指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	フライス盤
原 因	不 安 全 な 状 態	・エンドミルが回転していた。	
	不 安 全 な 行 動	・エンドミルの停止を確認せずに掃除した(清掃時の軍手着用は手順通り)	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・清掃時電源OFFの確認を行う指導が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・清掃時は電源OFFの確認および指差呼称の徹底を教育し現場で確認する。 ・フライス盤に注意喚起の看板をとりつける(清掃前確認事項等)	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 25)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月24日(木)	10時 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鷹職	30才 1年
発 災 時 の 作 業 内 容		機器のボンネットカバーの復旧時、被災者(持ち手)が打撃スパナの掛け替えを行おうと手を出した際、共同作業者がハンマーを振り下ろし、ハンマーと打撃スパナに被災者の手が挟まれた。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		挫創	右手小指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		激突され	打撃スパナ
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・持ち手が打撃スパナを掛け替えるために手を出してしまった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・取り決めたことの周知ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・持ち手は、作業中手を出さない。 ・作業開始前に取り決めたことを周知する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

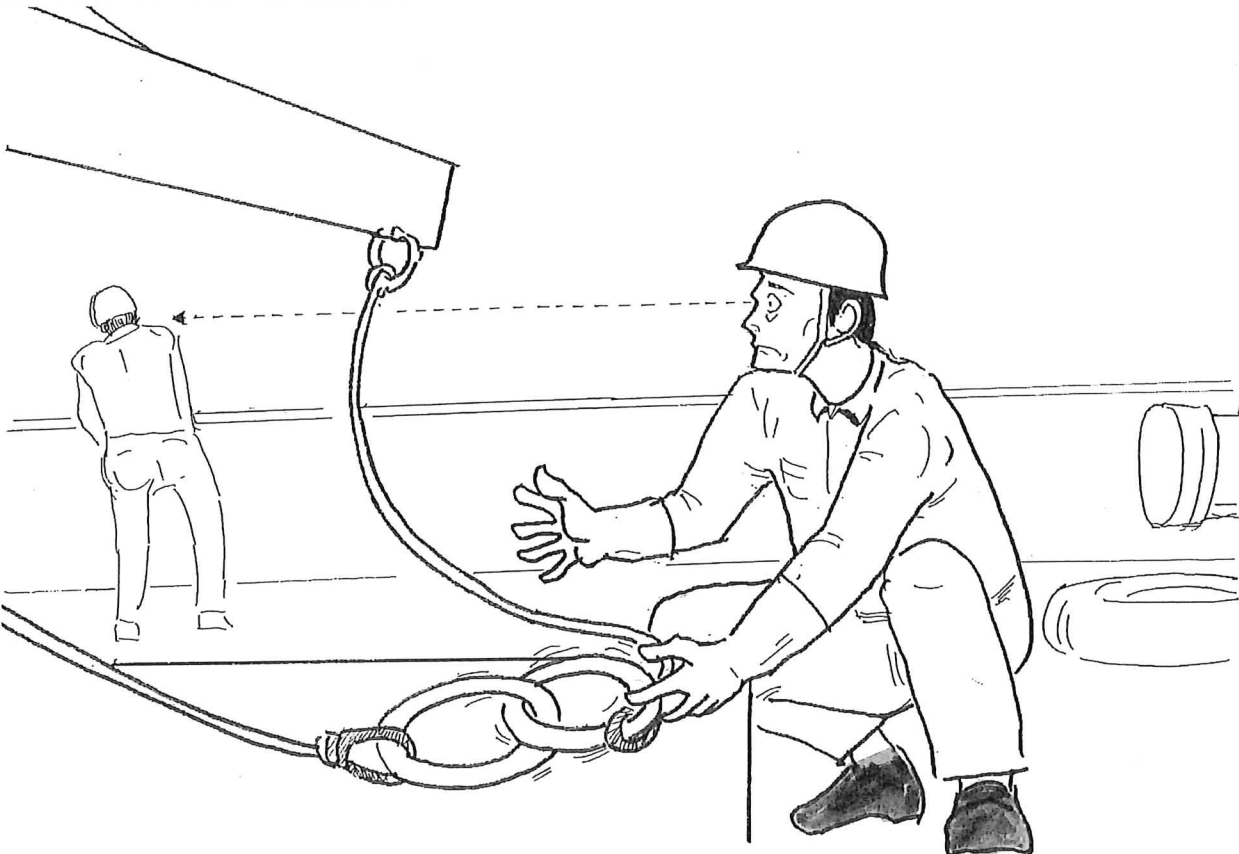
災 害 事 例 (不 休 業 26)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻: 場所		2025年7月28日(月) 10時30分	: プラント内
職 種 : 年 齢 : 経 験		鳶職	: 30才 : 3ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		槽内で足場解体中、足場パイプ(3.0m)を上段作業員、中段作業員、下段作業員で受け渡ししていた。中段作業員が足場パイプを受け損ね、下段の被災者に当たった。	
傷 病 名 : 部 位 : 程 度		骨折	: 右足甲部 : 不休業
事 故 の 型 : 起 因 物		飛来、落下	: 足場パイプ
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 上段作業員が足場パイプを受け渡すときに、下段作業員が動線上にいた。	
	不 安 全 な 行 動	・ 上段作業員は動線の確認をせずに中段作業員に足場パイプを受け渡そうとした。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 足場パイプの受け渡し方法について指導ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 足場パイプを受け渡すときは、動線上及び周囲に人がいないことを確認する。 ・ 足場パイプの受け渡し方法を教育し、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り

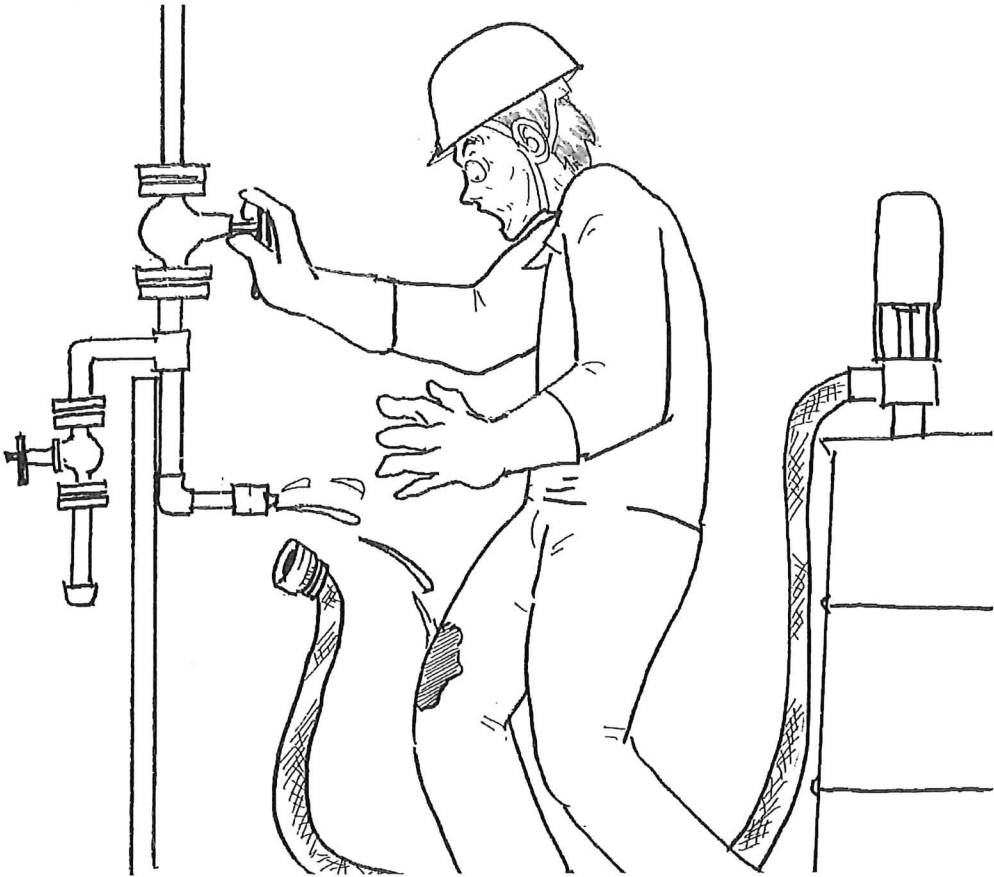
災 害 事 例 (不 休 業 27)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年7月31日(木)	17時40分 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		鷹職	19才 2年
発 災 時 の 作 業 内 容		配管復旧時、被災者(持ち手)が打撃スパナの掛け替えを行おうと手を出した際、共同作業員がハンマーを振り下ろし、ハンマーと打撃スパナに被災者の手が挟まれた。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		挫滅創	左手人さし指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		激突され	打撃スパナ
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・持ち手が打撃スパナを掛け替えるために手を出してしまった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・取り決めたことの周知ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・持ち手は、作業中手を出さない。 ・作業開始前に取り決めたことを周知する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

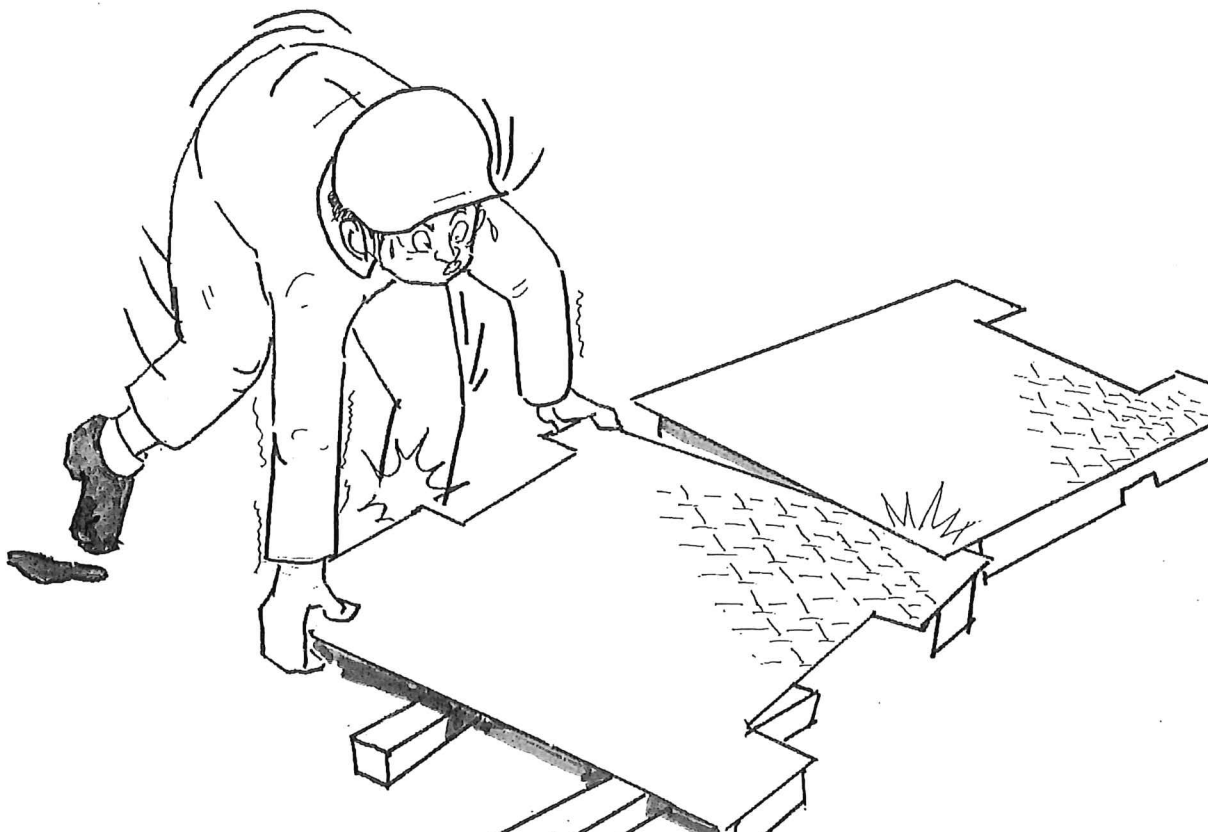
災 害 事 例 (不 休 業 28)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年8月19日(火) 9時	工場内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	41才 3ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		被災者は紙袋(25 kg)の投入作業を実施していた。作業中、腰部に痛みが生じたが、作業が可能であったため、自己判断で作業を継続した。 翌日も自己判断で同作業を実施した。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		挫傷	腰部 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		動作の反動、無理な動作 紙袋(25kg)	
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・腰部に痛みを生じていたが、作業が可能であったため、自己判断で作業を継続した。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・体調異常時の報告について指導が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・体調異常時は報告することを徹底する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			無し
			

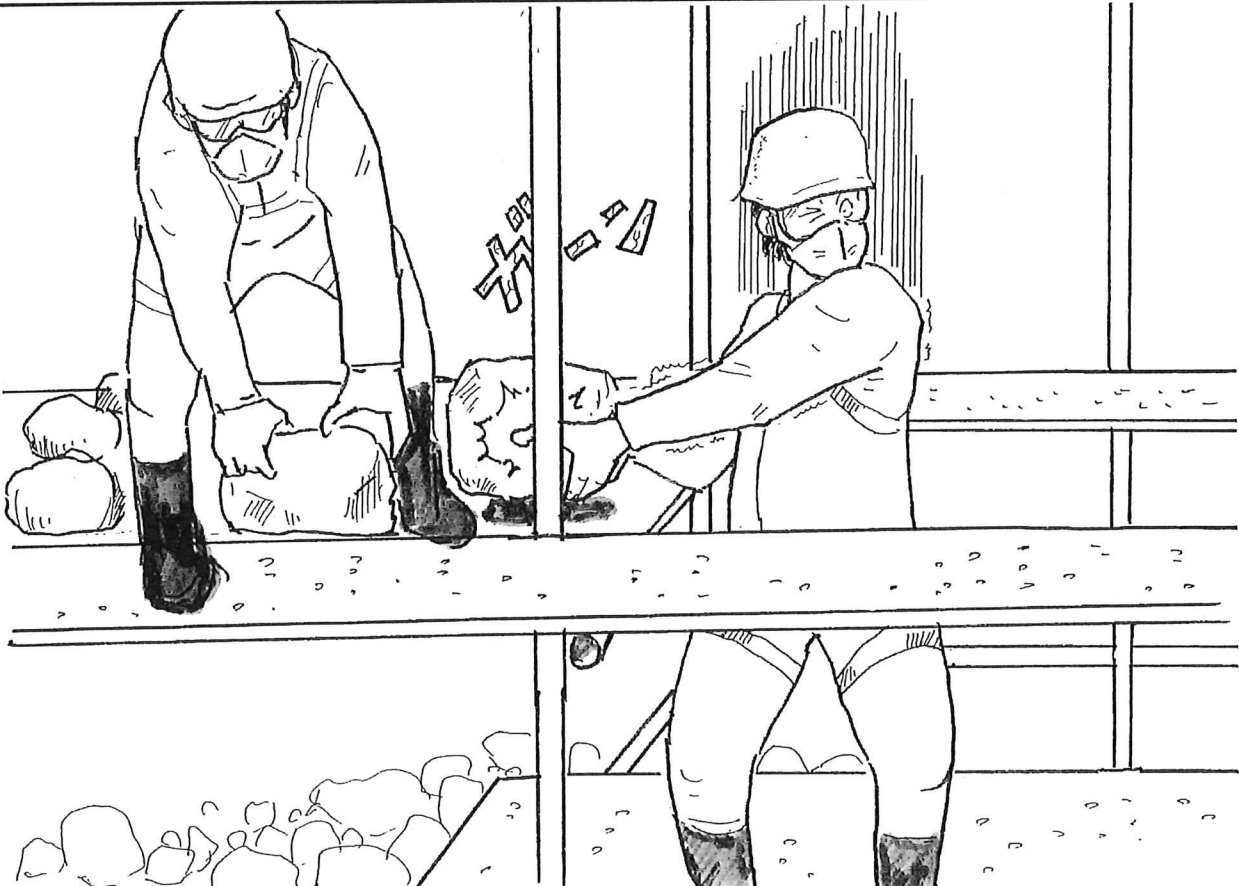
災 害 事 例 (不 休 業 29)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年9月8日(月)	16時45分：ローリー充填場
職 種：年 齢：経 験		運転士	55才：17年
発 災 時 の 作 業 内 容		ローリー車工具BOXの蓋を開けて品目看板を取り出そうとした時、蓋が閉まって手を挟んだ。	
傷 病 名：部 位：程 度		切創	右手親指：不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	工具BOX
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・工具BOXの蓋が止まる位置まで開けていなかった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・工具BOXの蓋が止まることを確認してから作業することを指導していなかった。	
再 発 防 止 対 策		・工具BOXの蓋が止まることを確認してから作業開始する旨を教育し、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 30)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年9月10日(水) 14時10分	場内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	45才 11年
発 災 時 の 作 業 内 容		除草後の草を回収している際、排水溝開口部に足を落とした。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		挫創	右下腿 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		墜落、転落	排水溝
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 排水溝が草で覆われており、開口部が目視しづらかった。	
	不 安 全 な 行 動	・ 足元の確認が不十分だった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 作業エリアの安全について事前確認をしていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 作業時は足元周囲の確認を行う。 ・ 作業エリアの安全について事前確認を行い、開口部等がある場所については立入禁止措置を行う。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			無し

災 害 事 例 (不 休 業 31)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年9月18日(木)	13時：甲板
職 種：年 齢：経 験		作業員	46才：27年
発 災 時 の 作 業 内 容		船の甲板上でホース取り付け作業中、捻じれていたワイヤーリングとクランプ の間に手を挟んだ。	
傷 病 名：部 位：程 度		挫創(3針縫合)	左手薬指：不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	ワイヤーリング
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・ワイヤーリングとクランプロック部の間に手を出した。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ワイヤーリング取扱い時の作業手順(ワイヤーリングのどこを持つのか、ど こを持ってはいけないのか等)の教育が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・ワイヤーリング取扱い時の注意事項を作業手順書に記載し、現地で確認指導 する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 32)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年9月19日(金)	9時30分 プラント内
職 種：年 齢：経 験		作業員	67才 1年5ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		添加剤をドラムへ充填するため、吐出フレキのカプラー部(メス側)を吐出配管(オス側)に付け替えた。吐出バルブを開けた際、取り付けたカプラーが外れて添加剤が噴出し被液した。	
傷 病 名：部 位：程 度		薬傷	右足膝上 不休業
事 故 の 型：起 因 物		有害物等との接触	吐出バルブ
原 因	不 安 全 な 状 態	・オス側カプラーのOリングが劣化しており、チャッキ機能が作動しない状態になっていた。	
	不 安 全 な 行 動	・カプラー部の装着が確実に出来ているか、事前確認が不十分であった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業前にチャッキ機能が正常に作動することを確認させていなかった。 ・カプラー部接続時の確認について指導が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・作業前にチャッキ機能が正常に作動することを確認する。 ・カプラー部接続時の確認について指導を行う。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 33)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年9月29日(月)	15時30分：建設工事エリア
職 種：年 齢：経 験		作業員	54才：34年
発 災 時 の 作 業 内 容		チェッカープレートを重ねる作業を行っていた際、プレートが隣のプレートに引っかかっていることに気付かず持ち上げようとして体勢を崩し、プレートの角が足に接触した。	
傷 病 名：部 位：程 度		切創	左ふくらはぎ：不休業
事 故 の 型：起 因 物		切れ、こすれ	チェッカープレート
原 因	不 安 全 な 状 態	・プレートが隣のプレートに引っかかっていた。	
	不 安 全 な 行 動	・プレートが引っかかっていることを確認せずに持ち上げようとした。	
	安全管理上の欠陥		
再 発 防 止 対 策		・プレートを動かす際は対象物と周囲の状態を確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

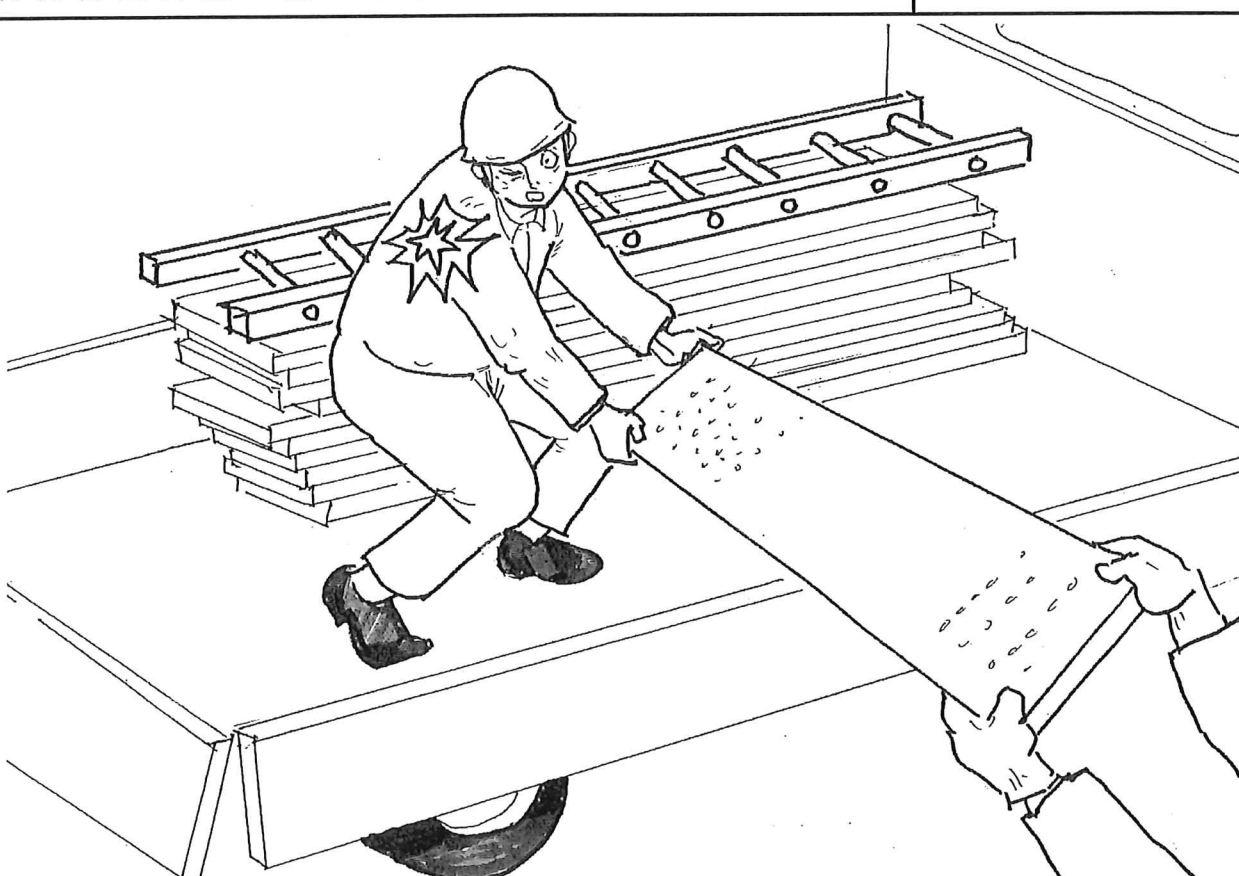
災 害 事 例 (不 休 業 34)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年10月3日(金) 13時28分	プラント内
職 種：年 齢：経 験		作業員	22才 4年
発 災 時 の 作 業 内 容		炉内の耐火材除去作業を足場上で行っていた。足場上に置いた耐火材ガラ(約10kg)を床に下ろしている際、足場パイプと耐火材ガラの間で手を挟んだ。	
傷 病 名：部 位：程 度		骨折	左手親指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	足場
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・耐火材ガラを床に下ろす際、周囲と手元の確認が不十分だった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・耐火材ガラを床に下ろす際、周囲と手元の確認を行う指導が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・耐火材ガラを床に下ろす際、周囲と手元の確認をする指導を行い、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 35)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年11月17日(月) 9時25分	ドラム充填場
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		作業員	24才 2年
発 災 時 の 作 業 内 容		出荷レーンから流れてくる充填済みドラム缶(約160kg)の品名及び数量を確認していた。無意識に充填済みドラム缶へ手を置いた際、後方から流れてきた充填済みドラム缶に手を挟まれた。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		裂傷(3針縫合)	左手薬指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	出荷レーン
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・後方から流れてくるドラム缶の進行方向に手を入れた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業員に対して安全基本行動(動く方向に身体を入れない)の指導が不十分だった。 ・マニュアルに確認作業についての記載がなかった。	
再 発 防 止 対 策		・作業員に対して安全基本行動(動く方向に身体を入れない)の指導を行い、現地で確認する。 ・マニュアルに確認作業についての記載をする。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 36)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年11月18日(火) 13時50分	屋外
職 種：年 齢：経 験		作業員	24才 5年
発 災 時 の 作 業 内 容		ダンプ車荷台のあおり開き止めピンの刺し忘れにより碎石の一部がこぼれたため、荷台を水平に戻した。その時、あおりとフレームの間に碎石が挟まれたので作業員が手で取り除いた際、あおりがフレーム側に戻り手を挟まれた。	
傷 病 名：部 位：程 度		骨折	右手中指 不休業
事 故 の 型：起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	ダンプ
原 因	不 安 全 な 状 態	・あおり開き止めピンが刺さっていなかった。	
	不 安 全 な 行 動	・挟まった碎石を直接手で取り除いた。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業中手を出さないことの教育ができていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ダンプアップ前にあおり開き止めピンが刺さっていることを確認する。 ・作業中手を出さないことの教育を行い、現地で確認する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 37)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所		2025年11月18日(火)	14時 プラント内
職 種 ： 年 齢 ： 経 験		監督他	46才 2ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容		ブルドーザーで地面の土を埋め戻し作業中、監視員が移動した際、土やシートで隠れていた配筋の間に足を挟んだ。	
傷 病 名 ： 部 位 ： 程 度		打撲	左足小指 不休業
事 故 の 型 ： 起 因 物		はさまれ、巻き込まれ	配筋
原 因	不 安 全 な 状 態	・ 配筋が土やシートで隠れていた。	
	不 安 全 な 行 動	・ 移動時、足元の確認をしていなかった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・ 移動時は足元の確認をすることの教育が不足していた。 ・ 作業動線の確保をしていなかった。	
再 発 防 止 対 策		・ 安全基本行動（移動時は足元の確認をする）の教育を行い、現地で指導する。 ・ 作業動線を確保する。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

災 害 事 例 (不 休 業 38)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年11月18日(火)	9時35分：工場内
職 種：年 齢：経 験		作業員	54才：33年
発 災 時 の 作 業 内 容		クリーンルームにて照明用スイッチの配線作業をかがんで行っていた。工具を取るために立ち上がった際、計器操作盤に頭が接触した。	
傷 病 名：部 位：程 度		挫創(3針縫合)	頭：不休業
事 故 の 型：起 因 物		激突	計器操作盤
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・周囲を確認せずに立ち上がった。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・周囲を確認することの指導が不十分だった。 ・作業に適した保護具を使用させなかった。	
再 発 防 止 対 策		・安全基本行動(周囲を確認する)の教育を行い、現地で確認する。 ・作業に適した保護具(インナー付きヘルメット等)を使用させる。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			無し
			

災 害 事 例 (不 休 業 39)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所		2025年12月18日(木)	10時：屋外
職 種：年 齢：経 験		鳶職	39才：7年
発 災 時 の 作 業 内 容		足場材をトラックへ積み込む作業を行っていた。被災者はトラックの荷台上で足場材を引き込む作業をしていた。被災者は右腕を伸ばした時に痛みを感じたが、特に問題無いと自己判断してそのまま作業を完了した。 その後痛みが引かなかったので救急車を要請した。	
傷 病 名：部 位：程 度		脱臼	： 右肩関節： 不休業
事 故 の 型：起 因 物		動作の反動、無理な動作： 足場材	
原 因	不 安 全 な 状 態		
	不 安 全 な 行 動	・無理に手を伸ばした。	
	安 全 管 理 上 の 欠 陥	・作業員の体調管理が不十分だった。	
再 発 防 止 対 策		・作業員の体調管理を行い、適切な配置を行う。 ・持病を含めた体調報告を行う。	
再 発 防 止 対 策 に 基 づ く リ ス ク ア セ ス メ ン ト の 実 施			有り
			

熱中症の対策について

労働安全衛生規則の改正により、これまで努力義務だった職場における熱中症対策が、令和7年(2025年)6月より義務化されました。

改正の目的は、熱中症による健康障害の早期発見や重篤化の防止です。

これまでも塩分や飲料水の備え(安衛則617条)などは義務とされていましたが、具体的な早期発見のための仕組みまでは求められていませんでした。

本改正により、以下の体制整備が「罰則付きの義務」へと格上げされました。

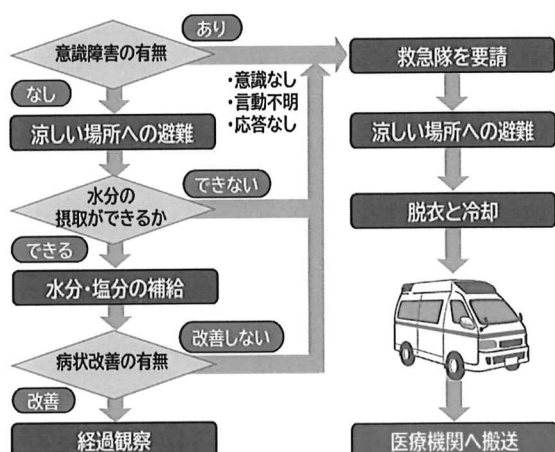
- | | |
|---------------|------------------------|
| ①早期発見の体制整備 | ⇒ 異常をいち早く察知する仕組みづくり |
| ②重篤化防止措置の手順作成 | ⇒ 発生時の応急処置や救急搬送ルールの策定 |
| ③関係作業員への周知 | ⇒ 上記ルールを関係する従業員に周知すること |

令和7年は当連絡協議会に加盟する企業においてなんらかの医療措置を要した事例が4件でした。(休業災害2件、不休業災害2件)

幸いにもすべての事例で健康は回復し重篤化はありませんでした。(最大3日の休業)

熱中症未然防止対策の基本は、以下のような事項が考えられます。

- 工事着工前に作業員の健康状態等を確認する(体調不良があれば厳しい作業をさせない)
- こまめな水分・塩分補給の励行
- 作業環境の過酷度を評価し可能な限り改善し現地で確認
- 決めた保護具の確実な着用
- 決めた休憩(クールダウン)の実施徹底
- 監督者及び作業員同士の声かけ、作業員からの体調不良自覚時の早期声出し



熱中症による重篤化防止対策の基本は、監督者等が体調不良者をいち早く察知したら、左記のフローのとおり初動対応を遅滞なく講じることです。

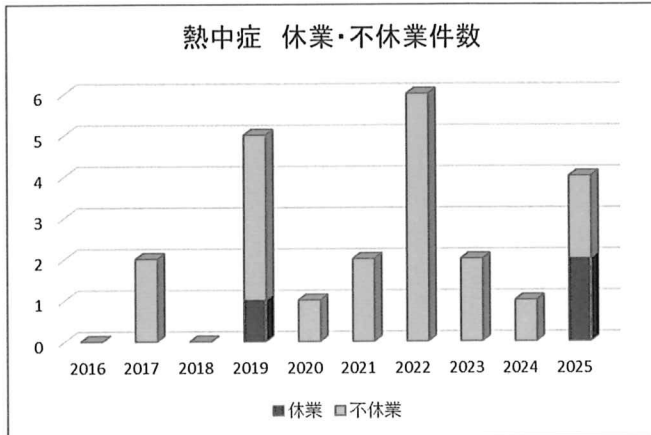
企業は監督者に対し迅速な初動対応の徹底を求めましょう。

適切な初動対応は、重篤化リスクを軽減し休業に至るような事例の低減が期待できます。

当連絡協議会で把握する事例は休業又は不休業災害に至り報告されたものだけであり、データ数が限定的ですが、直近10年間の事例について覚知時季/曜日/時間帯で分類してみましたので次ページをご覧ください。

「異常をいち早く察知する」際の予測・心構えの一助とし医療措置を要する事例の防止に役立ていただければ幸いです。

熱中症：直近10年間の分類（23件〔年平均2.3件〕）



覚知時季	6月		7月		8月		9月	
	1-15	16-30	1-15	16-31	1-15	16-31	1-15	16-30
2016								
2017				1	1			
2018								
2019			1	1	1①			1
2020		1						
2021		1					1	
2022		2			2	1	1	
2023				1	1			
2024						1		
2025			①		1	1	①	

「覚知曜日」・・・丸数字は休業

覚知曜日	月	火	水	木	金	土	日
2016							
2017		1			1		
2018							
2019	2	1	1		①		
2020	1						
2021		1			1		
2022	3	1	1		1		
2023				2			
2024				1			
2025	①1	①1					

「覚知時間」・・・丸数字は休業

覚知時間	9h-	10h-	11h-	13h-	14h-	15h-	16h-	17h-
2016								
2017						1	1	
2018								
2019	2		1				①	1
2020					1			
2021		1	1					
2022		2	1	1	1		1	
2023			1		1			
2024	1							
2025			1	1	①		①	

熱中症件数は、2009年に初めて報告され、その後ゼロ～数件が続き、2019年より一定数の件数が報告されています。

件数はばらつきがあり、年毎の暑さの違いも影響しているものと推察されます。

2019年までは猛暑時季の7月から8月の件数が多い状況でした。

2020年以降は、6月中旬から残暑が残る9月末まで広い時季で件数が確認されており、注意を要する期間が長くなっている傾向が見られます。

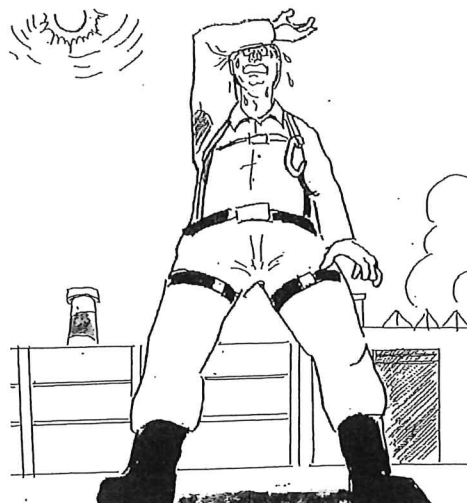
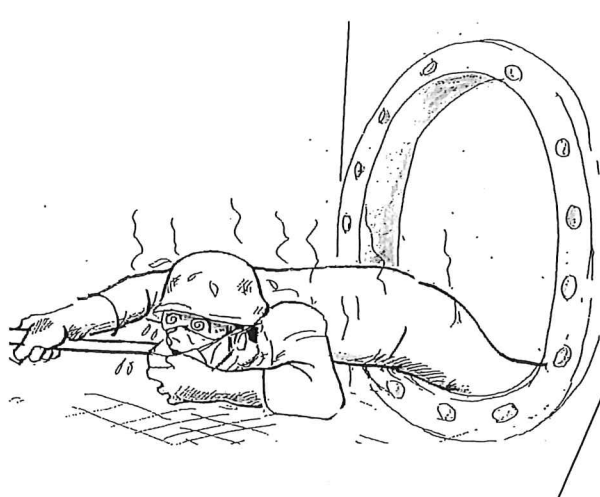
休暇明けと考えられる月・火の件数が多い傾向が見られます。

「暑熱順化」が休暇でリセットされた、あるいは休暇中の生活に起因する個人の体調管理不足(睡眠不足や免疫力の低下)が生じていた可能性が推察されます。

猛暑時季ではWBGT値の上昇も早いことから広い時間帯にばらついていますが、作業開始後1から2時間経過した時点が多い傾向が見られます。休憩前あるいは休憩中で体調変化を確認することが重要と推察されます。

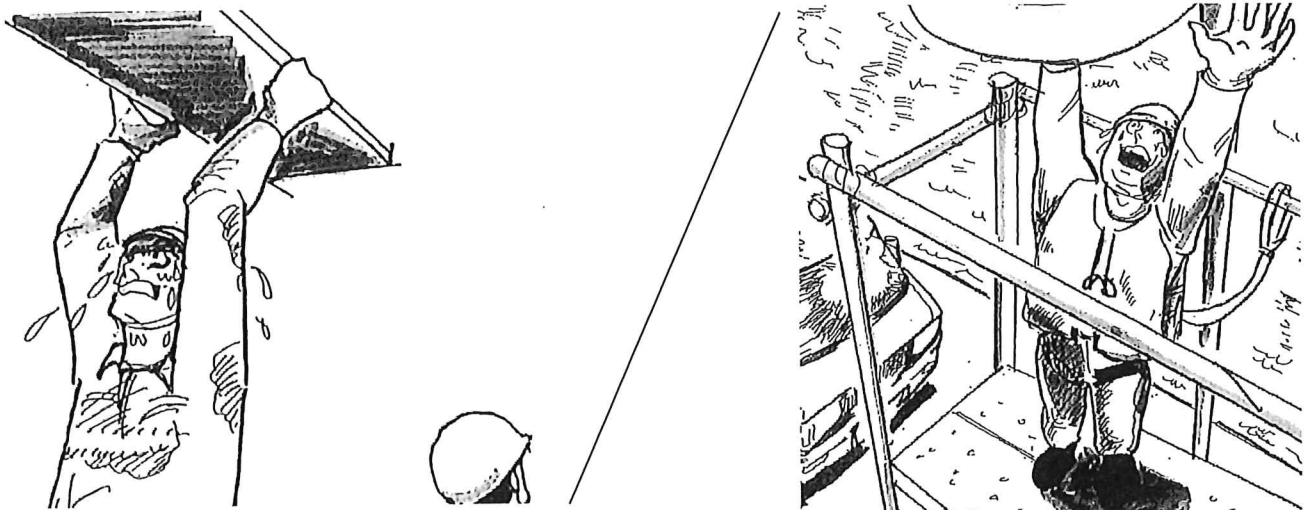
又、覚知後十分な安静時間が確認しにくい作業終了に近い午後で休業件数が見られます。安全サイドで医療措置を講じる判断が重篤化リスク軽減のポイントと推察されます。

災 害 事 例 (休 業 4)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所	2025年7月15日(火)	14時15分	タンク内
職 種：年 齢：経 験	作業員	45才	13年
発 災 時 の 作 業 内 容	タンク入槽し、JET 洗浄作業実施中 <覚知及びその後の対応> 体調変化を感じ、作業を中断し、17時まで事務所で休憩。 自身が車を運転し帰宅。入浴後症状改善が見られず病院受診、点滴を受ける。 (覚知から病院受診までの時間：推定4時間程度) <作業環境> WBGT 値 31℃以上 <事前の体調管理・持病等> 情報なし		
傷 病 名：部 位：程 度	熱中症		休業3日
事 故 の 型：起 因 物	高温・低温の物との接触		環境等



災 害 事 例 (休 業 5)		災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所	2025年9月8日(月)	16時00分	屋外作業場
職 種：年 齢：経 験	作業員	46才	7年
発 災 時 の 作 業 内 容	午前 ギアポンプ分解作業 / 午後 機器片付け運搬作業 <覚知及びその後の対応> 13:25~15:00 で連続作業実施。16 時頃体調不良を自覚したが、通常退社。 退社後 18 時半頃に「嘔吐」「手足のしびれ」。翌朝、病院受診 (覚知から病院受診までの時間：推定17時間程度) <作業環境> WBGT 値 午前 28℃ / 午後 34℃ <事前の体調管理・持病等> 情報なし		
傷 病 名：部 位：程 度	熱中症		休業2日
事 故 の 型：起 因 物	高温・低温の物との接触		環境等

災 害 事 例	(不 休 業 40)	災害発生前にリスク アセスメントの実施	無し
年月日(曜日)時刻：場所	2025年8月5日(火)	11時50分	解体作業場
職 種：年 齢：経 験	作業員	24才	1年
発 災 時 の 作 業 内 容	足場解体作業実施中 <覚知及びその後の対応> 体調が悪くなり、水分補給時に嘔吐した。作業中断を指示し、車で詰所へ移動。 詰所にて水分補給をしたところ。再び嘔吐した。 「手足のしびれ」「嘔吐」 <作業環境> WBGT 値 32℃ <事前の体調管理・持病等> 情報なし		
傷 病 名：部 位：程 度	熱中症		不休業
事 故 の 型：起 因 物	高温・低温の物との接触		環境等



災 害 事 例	(不 休 業 41)	災害発生前にリスク アセスメントの実施	有り
年月日(曜日)時刻：場所	2025年8月18日(月)	13時15分	屋外作業場
職 種：年 齢：経 験	作業員	29才	9ヵ月
発 災 時 の 作 業 内 容	燃烧炉の最上階3Fで排ガス測定作業中(空調服、ペルチェベストを着用) <覚知及びその後の対応> 体調の異変を感じ、動けなくなった。(共同作業者が覚知) 休憩室に徒歩移動し、水分・塩分を補給した。 「手のしびれ」「めまい」が残る状態のため、病院で診察、点滴実施。 体調回復し帰宅。 <作業環境> 気温 35℃ <事前の体調管理・持病等> 情報なし		
傷 病 名：部 位：程 度	熱中症		不休業
事 故 の 型：起 因 物	高温・低温の物との接触		環境等

令和7年死亡災害発生状況

三重労働局

No.	発生月	業種	被災者		事故の型	起因物	発生状況
			職種	年齢(年代)			
1	4月	木造家屋建築工事業	作業者	20代	倒壊・崩壊	建築物・構築物等	木造建物解体工事現場において、車両系解体用機械を用いて解体作業中、建物の一部が崩れ、補助作業を行っていた作業者に激突した。
2	6月	土木工事業	作業者	70代	激突され	環境等	伐倒木の枝払い作業中、同僚が伐倒した木が、作業者に激突した。
3	6月	小売業	作業者	60代	墜落・転落	建築物・構築物等	作業者が行方不明となり、その後事業場外部の用水路の溝に倒れているところを発見された。
4	8月	土木工事業	作業者	20代	激突され	建設用機械	ドラグショベルが乗っていた地山が崩壊したため、ドラグショベルが転落し、下部で作業していた被災者に激突した。
5	9月	小売業	作業者	60代	交通事故	乗物	自動車を運転中、カーブを走行していたところ、雨により路面が濡れていたためスリップし、海に転落した。
6	9月	道路貨物運送業	運転手	50代	交通事故	動力運搬車	路肩に停車し、自車後部で作業を終え運転席に戻る際、後方から来た大型トラックと接触した。
7	12月	建築工事業	作業者	60代	倒壊・崩壊	環境等	建物解体工事現場において、掘削した穴の中で基礎杭撤去に係る作業中、土砂が崩壊した。

令和7年 労働災害発生状況 (死亡者数及び休業4日以上死傷者数)

四日市労働基準監督署

業 種	業 別	合 計																	分 類 不 能																
		(3)	821	(1)	111	236	31	45	9	(1)	21	83	46	2	お	ほ	と	接		感	爆	火	交	通	事	故	無	理	の	反	動	作	そ	の	他
製造業	食料工業	42	2	16	1	3			1	8	3																								
	繊維工業	4																																	
	衣服その他の繊維	1																																	
	木材・木製品																																		
	家具・装飾品																																		
	パルプ・紙加工品	5																																	
	印刷・製本																																		
	化学工業	27	4	4	1	1				1	4	3	1																						
	窯業・土石製品	15	1	6	1	4				1	3																								
	鉄鋼業	9	2	2	1	4					2																								
建設業	非金属製品	3	1																																
	鉄製品	28	3	1	1	4			2	10	1																								
	一般機械器具	26	2	4	3	4			1	9	1																								
	電気機械器具	14	2	3	1	1				1	1																								
	電気業																																		
	造船業																																		
	運輸業以外の輸送用機械	24	1	10	1	2				4																									
	電気・ガス・水道業																																		
	自動車整備業・機械修理業	3	1		1																														
	上記以外の製造業	8	1	3						3	1																								
運輸業	小計	209	18	51	9	21	3	4	46	12	1																								
	鉱業	2	1																																
	上記以外の鉱業	1	1																																
	小計	3	2																																
	土木工事	(1)	23	4																															
	木造家屋等建築工事	5																																	
	木造家屋以外の建築工事	11	4	2																															
	水道家屋以外の建築工事	26	9	2																															
	その他の建設業	(1)	65	17	4	2	3	(1)	7	7	10																								
	小計	12	1	4																															
運輸業	旅客運送業	(1)	110	28	4	10	4	12	1																										
	道路貨物運送業	22	3	6	2	1																													
	河川運送業	34	31	6																															
	海上運送業	1																																	
	上記以外の運輸業	(1)	146	34	31	6	11																												
	小計	8	1	1																															
	林業																																		
	農業																																		
	畜産業																																		
	水産業																																		
第三次産業等	小計	9	1	1																															
	小計	(1)	103	(1)	12	47	4																												
	商業	8	2	2																															
	うち新聞販売業	19	5	5																															
	上記以外の商業	11	2	2																															
	通信業	71	4	26	3																														
	社会福祉施設	33	1	14	2																														
	医療保健業・その他	4	2																																
	旅館業	39	1	18																															
	飲食店業	22	5	7	1																														
その他	上記以外の接客業	18	7	6	1																														
	ビルメンテナンス業	8	1	4	1																														
	廃棄物処理業	14	3	1	1																														
	上記以外の清掃・と畜業	9	2	2	1																														
	小計	26	4	8	1																														
	上記以外	(1)	389	(1)	39	149	16	3	16	20	1																								
	小計																																		

注：死亡者数は内数であらわした。
注：（ ）は、死亡者数を内数であらわした。

四日市労働基準監督署「死亡災害報告・労働者死傷病報告」

注：（ ）は、死亡者数を内数であらわしたものとす。

令和7年 労働災害発生状況（死亡者数及び休業4日以上之死傷者数）

四日市労働基準監督署
確 定

業 種		令和6年		令和7年		対前年比			
		死亡者数	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡		死傷	
						人数	%	人数	%
合 計		8	806	3	821	-5人	-62.5%	+15人	+1.9%
製 造 業	食 料 品		47		42			-5人	-10.6%
	織 維 工 業		3		4			+1人	+33.3%
	衣 服 そ の 他 の 織 維		1		1			±0人	±0.0%
	木 材 ・ 木 製 品		4					-4人	-100.0%
	家 具 ・ 装 備 品		4					-4人	-100.0%
	パ ル プ ・ 紙 加 工 品		1		5			+4人	+400.0%
	印 刷 ・ 製 本		2					-2人	-100.0%
	化 学 工 業		21		27			+6人	+28.6%
	窯 業 土 石 製 品	1	14		15	-1人	-100.0%	+1人	+7.1%
	鉄 鋼 業	1	11		9	-1人	-100.0%	-2人	-18.2%
	非 鉄 金 属		5		3			-2人	-40.0%
	金 属 製 品		38		28			-10人	-26.3%
	一 般 機 械 器 具		13		26			+13人	+100.0%
	電 気 機 械 器 具		7		14			+7人	+100.0%
	造 船 業								
	造 船 業 以 外 の 輸 送 用 機 械		31		24			-7人	-22.6%
	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業								
	自 動 車 整 備 業 ・ 機 械 修 理 業		5		3			-2人	-40.0%
	上 記 以 外 の 製 造 業		11		8			-3人	-27.3%
	小 計	2	218		209	-2人	-100.0%	-9人	-4.1%
鉱 業	採 石 業		2		2			±0人	±0.0%
	上 記 以 外 の 鉱 業				1			+1人	
	小 計		2		3			+1人	+50.0%
建 設 業	土 木 工 事	1	19	1	23	±0人	±0.0%	+4人	+21.1%
	木 造 家 屋 等 建 築 工 事		9		5			-4人	-44.4%
	木 造 家 屋 以 外 の 建 築 工 事		19		11			-8人	-42.1%
	そ の 他 の 建 設 業	3	47		26	-3人	-100.0%	-21人	-44.7%
	小 計	4	94	1	65	-3人	-75.0%	-29人	-30.9%
運 輸 業	旅 客 運 送 業		12		12			±0人	±0.0%
	道 路 貨 物 運 送 業	2	102	1	110	-1人	-50.0%	+8人	+7.8%
	港 湾 運 送 業		4		2			-2人	-50.0%
	上 記 以 外 の 運 輸 業		17		22			+5人	+29.4%
	小 計	2	135	1	146	-1人	-50.0%	+11人	+8.1%
第 一 次 産 業	林 業		2		1			-1人	-50.0%
	農 業 ・ 畜 産 業		6		8			+2人	+33.3%
	水 産 業								
	小 計		8		9			+1人	+12.5%
第 三 次 産 業 等	小 売 業		94	1	103	+1人		+9人	+9.6%
	う ち 新 聞 販 売 業		17		8			-9人	-52.9%
	上 記 以 外 の 商 業		19		19			±0人	±0.0%
	通 信 業		11		11			±0人	±0.0%
	社 会 福 祉 施 設		83		71			-12人	-14.5%
	医 療 保 健 業 ・ そ の 他		24		33			+9人	+37.5%
	旅 館 業		6		4			-2人	-33.3%
	飲 食 店		19		39			+20人	+105.3%
	ゴ ル フ 業		12		22			+10人	+83.3%
	上 記 以 外 の 接 客 娯 楽 業		9		18			+9人	+100.0%
	ビ ル メンテナンス業		5		8			+3人	+60.0%
	産 業 廃 棄 物 処 理 業		19		14			-5人	-26.3%
	上 記 以 外 の 清 掃 ・ と 畜 業		6		9			+3人	+50.0%
	警 備 業		8		12			+4人	+50.0%
	上 記 以 外		34		26			-8人	-23.5%
	小 計		349	1	389	+1人		+40人	+11.5%

資料出所 四日市労働基準監督署「死亡災害報告・労働者死傷病報告」

注：死亡者数は内数であらわしたものを。

新型コロナウイルス感染症の患者数（令和6年：43人、令和7年：14人）を除く。

教育部会報告

2025年度の教育部会の関連事業は、事業計画通りに実施することができました。

これもひとえに、四日市労働基準監督署をはじめ、コンビナート元方企業の皆様の温かいご支援・ご指導のたまものと厚く御礼申し上げます。

本年度に実施しました事業内容は以下の通りです。

教 育 内 容		開 催 日	履修者	開催場所
第97回	職長・安全衛生責任者教育	2025.08.26~27	18名	昭四 塩浜クラブ
第98回	職長・安全衛生責任者教育	2026.02.25~26	9名	昭四 塩浜クラブ
第99回	職長・安全衛生責任者教育	2026.05.19~20	23名	昭四 塩浜クラブ
第92回	安全管理実践教育（KY）	2025.07.11	21名	昭四 塩浜クラブ
第93回	安全管理実践教育（KY）	2025.10.21	19名	昭四 塩浜クラブ
第94回	実践管理実践教育（KY）	2026.01.20	10名	昭四 塩浜クラブ
講師	職長・安全衛生責任者教育 小林 繁行氏・渡邊 健治氏・中西 伸一氏 安全管理実践教育（KY） 寶 幸夫氏・中西 伸一氏			
研 修 講 演 会	2025.09.11		54名	四日市市文化会館
	講師 (株)ENEOSマテリアル 環境保安部 保安防災課主査 佐野 茂樹 様 三重労働局 雇用環境・均等室 雇用環境改善・均等推進指導官 常川 基子 様 四日市労働基準監督署 安全衛生課長 平田 幸弘 様 四日市労働基準監督署 第一方面主任監督官 北畠 久也 様			

2025年度の活動は、会員各社様のご協力により全ての活動を予定通り実施する事が出来ました。活動内容につきましては、職長・安全衛生責任者教育3回、安全管理実践教育（KY）3回を計画通り開催し多数の方に参加して頂きました。

研修講演会は9月に開催し、講演内容は、株式会社ENEOSマテリアル様より『ENEOSマテリアル安全活動』、三重労働局様より『職場におけるハラスメント防止対策及び関係法令の改正について』、四日市労働基準監督署様より『労働基準法の基礎知識について』及び『労働安全衛生行政の動向等について』の4つのテーマで、有意義な講演を行っていただきました。あらためまして感謝申し上げます。

教育部会活動の各活動に参加された方々が、教育や講演会で得られました知識・情報を各社内で活用していただき、労働安全衛生の推進・強化に繋がっていただければと思います。

2026年度につきましても、教育部会委員をはじめ関係者一同、会員各社様の安全衛生活動向上のお役に立てるよう活動してまいりますと共に、引続き皆様のより一層のご協力をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。ご安全に！

教育部会長 / コスモ石油(株)四日市製油所工事安全協力会代表
山九(株) 森 健一

教育部会委員

＝五十音順＝

石原エンジニアリングパートナーズ(株)	=	石原産業(株)四日市工場災害防止協議会代表
エヌ・シー・ユー物流(株)	=	KHネオケム(株)四日市工場安全協力会代表
山 九 (株)	=	コスモ石油四日市製油所工事安全協力会代表
山 九 (株)	=	三菱ガス化学(株)四日市工場安全衛生協力会代表
東ソー霞エンジ(株)	=	東ソー(株)四日市事業所安全協議会代表
日本トランスシティ(株)	=	丸善石油化学(株)四日市工場安全衛生協力会代表
三菱化工機アドバンス(株)	=	第一工業製薬(株)四日市工場災害防止協議会代表

事故事例研究部会委員

御 指 導 : 四日市労働基準監督署 安全衛生課長 平 田 幸 弘 様
イラスト担当 : 新 川 和 明 様

＝五十音順＝

味の素エンジニアリング(株) = 味の素(株)東海地区安全衛生協議会代表
エムイーシーテクノ(株) = 三菱ケミカル(株)東海事業所安全衛生協議会代表
山 九 (株) = ENEOSマテリアル/JSR 四日市工場総合災害防止協議会
山 九 (株) = コスモ石油四日市製油所工事安全協力会代表
山 九 (株) = 三菱ガス化学(株)四日市工場安全衛生協力会代表
昭 永 工 業 (株) = D I C (株) 四日市工場安全衛生協力会代表
(株) 第 一 工 務 店 = 上野製薬(株)四日市工場安全衛生協力会代表
東邦ガスエナジーエンジニアリング(株) = 東邦ガス(株)四日市工場安全衛生協議会代表

お わ り に

「労働災害事例研究」第45集が完成したのでお届けいたします。

令和7年の災害件数は、当連絡協議会（14協議会）に所属する会社（484社）において、休業災害5件（重大0件/前年比6件減）、不休業災害41件（前年比16件増）となり、全体で大幅な増加となり労働災害に歯止めが掛ってない状況にあります。

災害の特徴として、休業災害は令和6年11件に対し令和7年は5件と6件の減少となりました。型別でみると「墜落、転落」2件、「飛来、落下」1件と従来の災害に歯止めが掛っていません。一方不休業災害については、令和6年の25件に対して令和7年41件と大幅な増加となりました。型別でみると「はさまれ・巻き込まれ」が最も多く令和6年の2件に対し令和7年は15件となり、13件の大幅な増加となりました。その他「切れ、こすれ」、「飛来、落下」、「激突され」など従来の事例も例年と同様の件数があり減少してない状況となっております。

第45集を纏め、過去の事例等を振り返りますと、労働災害の原因は、慣れた作業で今までケガがなかったから大丈夫との安易な考えが見られ、安全意識の不足が感じられます。また、作業を依頼する側から作業をされる方々に対して、若年者、経験が浅い作業や高齢者への安全配慮の不足などに起因するものも多く、法律、規則、決められたルールの教育等の不足が原因の背景に潜んでいるのではないかと考えられます。

会員の皆さま方には、共に働く仲間に対して、絶対に「怪我をしない・させない」意識のもと、危険への感受性を高める教育や、事前のリスクアセスメント・現場での危険予知等、類似災害や繰り返し災害の未然防止に、本事例集をご活用いただければ幸いです。

最後に、公務ご多忙の中、当事故事例研究部会をご指導いただきました四日市労働基準監督署安全衛生課長の平田様およびご熱心に討議いただきました各委員・関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

令和8年6月

事故事例研究部会長／三菱ガス化学（株）四日市工場安全衛生協力会代表
山九（株） 満仲 裕二

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会

会 員 名 簿

※ ◎印は幹事 ☆印は幹事部会 ★印は事故事例研究部会

1	正	協議会名 味の素㈱東海地区安全衛生協議会 住所 TEL 四日市市大字日永1730 味の素㈱東海事業所内 Tel 346-0118 代表会社 味の素エンジニアリング㈱東海事業所 住所 TEL 四日市市大字日永1730 味の素㈱東海事業所内 Tel 346-0118	構成会社 24社 代表者 坂田敏則	事務局 杉山 伸
2	正 副	協議会名 石原産業㈱四日市工場災害防止協議会 住所 TEL 四日市市石原町1 代表会社 石原エンジニアリングパートナーズ㈱ 住所 TEL 四日市市石原町1 代表者 浅野俊介	構成会社 3社 代表者 大崎雅樹	事務局 田中 明
3	正 副	協議会名 上野製薬㈱四日市工場安全衛生協力会 住所 TEL 四日市市霞1-4 上野製薬㈱四日市工場内 代表会社 ㈱村山電気工事 住所 TEL 四日市市日永西2丁目5-20 代表者 水野利明	構成会社 22社 代表者 油谷憲二	事務局 吉田雅一
4	正 副	協議会名 ENEOSマテリアル/JSR 四日市工場総合災害防止協議会 住所 TEL 四日市市川尻町100 代表会社 山九㈱ 住所 TEL 四日市市御園町1-3-1 代表者 船野哲也	構成会社 54社 代表者 吉松浩二	事務局 伊藤純司
5	正 副	協議会名 KHネオケム㈱四日市工場安全協力会 住所 TEL 四日市市大協町2-3 代表会社 エス・シー・ユー物流㈱四日市支店 住所 TEL 四日市市大協町2-3 代表者 後藤 真	構成会社 40社 代表者 萩野治文	事務局 萩野治文
6	正 副	協議会名 コスモ石油四日市製油所工事安全協力会 住所 TEL 四日市市大協町一丁目一番地 代表会社 山九㈱ 住所 TEL 四日市市御園町1-3-1 代表者 船野哲也	構成会社 55社 代表者 森 健一	事務局 七里正典 (専従)
7	正 副	協議会名 昭和四日市石油㈱四日市製油所安全協力連絡会 住所 TEL 四日市市塩浜町1 代表会社 昭永工業㈱ 住所 TEL 四日市市塩浜町1	構成会社 79社 代表者 小林伸一	事務局 小林伸一

2026年4月1日

8	正 副	協議会名 第一工業製薬災害防止協議会 住所 TEL 四日市市霞1丁目23番5 代表会社 三菱化工機アドバンス㈱ 住所 TEL 四日市市大治田3丁目3番48号	構成会社 20社 代表者 中村敏也	事務局 平岡武司
9	正	協議会名 DIC㈱四日市工場安全衛生協力会 住所 TEL 四日市市霞1-5 代表会社 昭永工業㈱午起事業所 住所 TEL 四日市市午起3丁目13-1	構成会社 8社 代表者 吉田真一郎	事務局 谷本啓輔
10	正	協議会名 東ソー安全協議会 住所 TEL 四日市市霞1-1 代表会社 東ソー霞エンジニア㈱ 住所 TEL 四日市市霞1-1	構成会社 72社 代表者 山本英雄	事務局 佐藤敏之 藤井聖大 (山口正敏)
11	正 副	協議会名 東邦ガス㈱四日市工場安全衛生協議会 住所 TEL 四日市市霞1-22-5 代表会社 東邦ガスエンジニアリング㈱ 住所 TEL 名古屋市中区福江3-7-7	構成会社 5社 代表者 鬼頭真史	事務局 稲垣隆宏
12	正 副	協議会名 丸善石油化学㈱四日市工場安全衛生協力会 住所 TEL 四日市市霞1-3 代表会社 日本トランスシティ㈱ 住所 TEL 四日市市末広町8-10	構成会社 5社 代表者 井上 猛	事務局 林 誠
13	正 副	協議会名 三菱瓦斯化学㈱四日市工場安全衛生協力会 住所 TEL 四日市市日永東2-4-16 代表会社 山九㈱ 住所 TEL 四日市市御園町1-3-1	構成会社 30社 代表者 船野哲也	事務局 渡辺博史 小松義人
14	正 副	協議会名 三菱ケミカル㈱東海事業所安全衛生協議会 住所 TEL 四日市市東邦町1 代表会社 エムイーシーテクノ㈱中部事業所 住所 TEL 四日市市東邦町1	構成会社 67社 代表者 内山秀樹	事務局 三島信行 (専従) 原岡道昭

会員=14協議会(協力会) 484構成会社